

令和5年度 第2次菊川市総合計画進捗状況報告書

政策評価シート

菊川市

目次	基本目標1 子どもがいきいき育つまち 【子育て・教育】	1
	政策1 安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまちづくり	1
	政策2 親と子が健やかに成長できるまちづくり	2
	政策3 安全・安心な教育環境が整ったまちづくり	3
	政策4 子どもの「生きる力」を育つまちづくり	4
	政策5 人を育み、若者を育てるまちづくり	5
	基本目標2 健康で元気に暮らせるまち 【保健・福祉・医療・社会教育】	6
	政策1 適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくり	6
	政策2 高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくり	7
	政策3 地域のなかで、互いに支え合うまちづくり	8
	政策4 障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくり	9
	政策5 入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり	10
	政策6 生涯にわたり学べるまちづくり	11
	政策7 芸術や文化に親しみ歴史・文化遺産が継承され活かされているまちづくり	12
	政策8 スポーツが盛んなまちづくり	13
	基本目標3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち 【産業】	14
	政策1 農業振興と次世代農業モデルを推進するまちづくり	14
	政策2 活力と魅力のある茶のまちづくり	15
	政策3 商工業が活気あるまちづくり	16
	政策4 人が訪れるまちづくり	17
	政策5 消費者が安心して暮らせるまちづくり	18
	基本目標4 快適な環境で安心して暮らせるまち 【防災・環境・社会資本整備】	19
	政策1 防災力を高めるまちづくり	19
	政策2 交通事故・犯罪のないまちづくり	20
	政策3 消防力を高めるまちづくり	21
	政策4 豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくり	22
	政策5 良好な住環境や道路・公園を次世代に引き継ぐまちづくり	23
	政策6 上水道が安全に安定して供給されるまちづくり	24
	基本目標5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち【コミュニティ・自助・共助・公助】	25
	政策1 市民と行政との協働によるまちづくり	25
	政策2 まちの元気・魅力が発信されるまちづくり	26
	政策3 性別、国籍を超えた共生社会を推進するまちづくり	27
	政策4 未来に向かって行財政機能を高めるまちづくり	28

政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいきいき育つまち										作成部署
R5	政策	1 安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまちづくり										子ども未来部
		SDGsゴール	1	2	3	4	5	16				
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度			
	政策事業費(予算)	4,122,034	3,139,990	3,306,893	3,850,054	政策費増減額	1,049,062	△ 982,044	166,903	543,161		
	政策事業費(決算)	4,035,978	3,044,464	3,222,141		比較	134%	76%	105%	116%		
						一般財源増減額	△ 12,073	52,553	52,149	△ 130,457		
						比較	99%	105%	105%	88%		
	コスト分析と課題 こども医療費助成は、令和5年10月からの無料化により事業費が増加した。事業費は、感染症の流行等により大きく左右されるため、常に子どもの通院等、受診状況の把握に努め、適正な予算管理に努めていく必要がある。これらの政策対応、待機児童対策、子育て環境の充実のため、国費や県費を有効に活用するとともに、利用者ニーズや社会情勢に合わせ、事業を見直していく必要がある。											

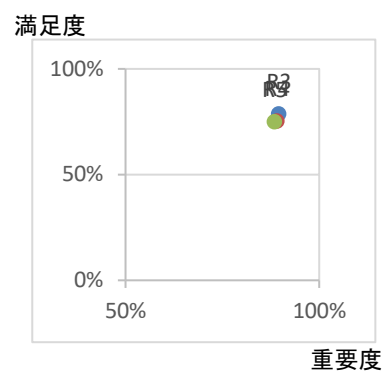
総合計画										行政評価			
1 安心して子育てができ、子どもが健やかに育つまちづくり	単位	現状値		目標値			実績値		期待値		達成率	評価	指標評価
		A	B	C			D	C/D					
H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度	R5年度						
「子育てしやすいまち」と思う市民の割合	%	80.2	85.0	78.7	75.2	75.0	83.9	89.4%	現未			C	
関連する施策													
幼稚園に行くことを楽しみにしている園児の割合	%	99.2	100.0	100.0	100.0	100.0	99.8	100.2%	S			B	
関連する施策													
幼児施設入所待機児童数	人	1	0	0	0	0	0	100.0%	S			B	
関連する施策													
子育て支援センター利用者数	人	62,520	67,700	27,422	32,632	39,073	66,549	58.7%	現未			E	
関連する施策													
関連する施策													
関連する施策													
指標分析と課題	幼児施設の入所待機児童数は、令和6年4月1日現在も「国定義務待機児童数0人」となったが、放課後児童クラブの利用待機児童と同様、すべての保護者のニーズに答えられていない状況であり、ニーズに応じた対応を検証する必要がある。児童館・子育て支援センターの利用は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響もなくなり、前年度と比較して大幅に増加することができた。保護者の就労形態の多様化や子育て環境が変化中、安心して子育てができるよう努める必要がある。												

関連施策									
施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R7年度 拡充化○ 縮減化△		
		成果1	成果2	判定評価	R7の方向性	コスト			
				成果	改善				
1 教育・保育サービスの充実に取り組みます	子ども政策課	S	A	維持	維持	①			
2 幼児教育・保育の質の向上を目指します	子ども政策課	S	A	拡充	拡充	①			
3 安心できる子育て環境を整備します	子ども政策課	S	A	拡充	拡充	①			
4 子育て世代を応援します	子育て応援課	S	C	拡充	拡充	③			

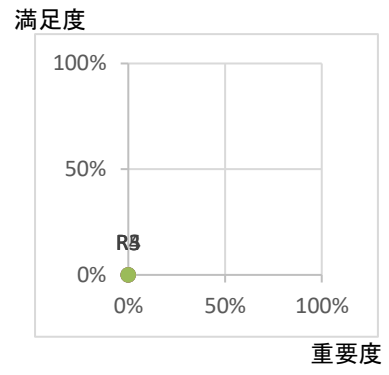
市民アンケート結果

総合評価

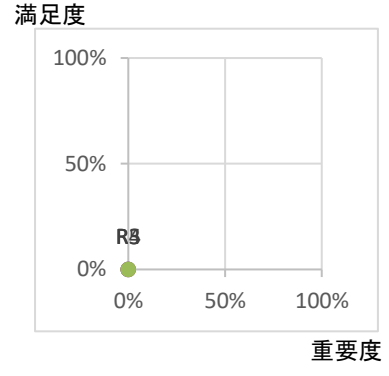
設問	1 「子育てしやすいまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度	80.2%	85.0%	78.7%	75.2%	75.0%	そう思う(満足)	9.8%
			92.6%	88.5%	88.2%	どちらかといえば思う	65.2%
						どちらかといえば思わない	17.7%
重要度			89.6%	89.1%	88.5%	重要	49.2%
						どちらかといえば重要	39.3%
						重要ではない	7.0%



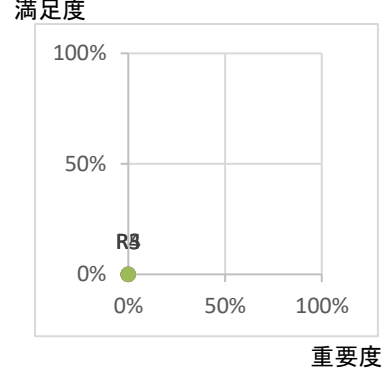
設問	1 「子育てしやすいまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	1 「子育てしやすいまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	1 「子育てしやすいまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析
 設問1の満足度・重要度は現状値未満となった。放課後児童クラブの待機児童発生などが主な要因と考える。市民の満足度を向上するため、今後もより一層、子育て環境の充実に努めていく。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 政策の進め方
放課後児童クラブは、順調に運営されているが、すべての保護者のニーズに答えられていない状況であるため、受入れ体制の見直しを実施した。今後も、令和6年度事業の「こども計画」の策定、児童館・子育て支援センターの休館日検討、児童手当の拡充等により、安心して子どもを産み育てられる社会の実現、子どもたちが健やかに育つことができるまちづくりを着実に進めていく。						

政策評価シート

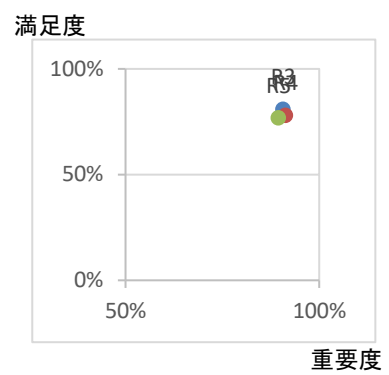
対象年度	基本目標	1 子どもがいいき育つまち										作成部署
R5	政策	2 親と子が健やかに成長できるまちづくり										子ども未来部
		SDGsゴール	1	2	3	4	16					
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度			
	政策事業費(予算)	184,721	251,137	236,439	242,692	政策費増減額	△ 7,860	66,416	△ 14,698	6,253		
	政策事業費(決算)	168,477	235,450	220,612		比較	96%	136%	94%	103%		
	健診事業や予防接種事業については、常に出生の動向を確認して、予算管理・執行していく必要がある。制度改正等に伴う不妊治療の一部保険適用や、HPV(子宮頸がん)ワクチンの接種勧奨再開等については、市民が適正に利用していただくため、さらなる周知が必要である。											
指標評価	総合計画										行政評価	
	2 親と子が健やかに成長できるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価	
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度			
	「安心して子どもを育てられるまち」だと思ふ市民の割合	%	82.5	88.0	80.9	78.0	76.8	86.8	88.5%	現未	C	
	関連する施策											
	乳幼児健診の受診率(1歳6か月健診と3歳健診の平均)	%	96.5	100.0	97.3	100.1	101.7	99.2	102.5%	S	B	
	関連する施策											
	関連する施策											
	関連する施策											
	関連する施策											
指標分析と課題	妊娠から出産、育児まで、切れ目のない支援を進める体制整備に取り組んだ。乳幼児健診の受診率は、昨年度を上回ることができた。今後も健診等の機会を捉えて、子どもや保護者が必要とする支援へ繋げていく必要がある。											
評価分析	関連施策											
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R7年度					
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△		
	1 母子保健事業の実施で親と子の健やかな成長を支援します	子育て応援課	S		A	維持	維持	①				
2 医療費助成で親と子の健康増進を推進します	子育て応援課	S		C	拡充	拡充	③					
3 子どもの成長や発達の支援に取り組みます	子育て応援課	S		A	維持	維持	①					

市民アンケート結果

総合評価

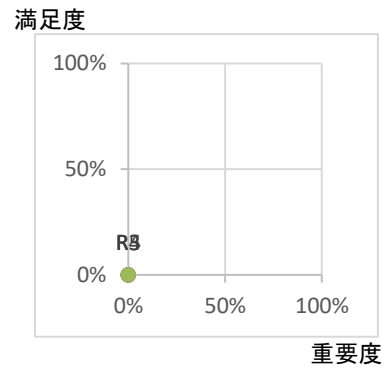
設問 1 「安心して子どもを育てられるまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度			80.9%	78.0%	76.8%	82.4%	88.0%
	そう思う(満足)						12.5%
	どちらかといえば思う						64.3%
重要度			91.9%	88.6%	87.3%		
	どちらかといえば重要						52.0%
	重要ではない						6.1%



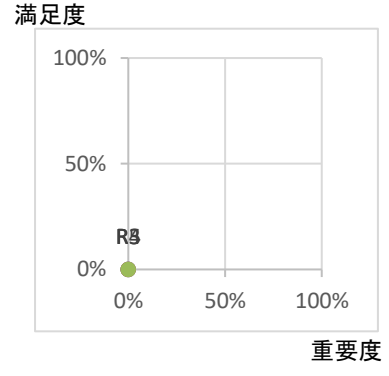
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度							
	そう思う(満足)						
	どちらかといえば思う						
重要度							
	どちらかといえば重要						
	重要ではない						



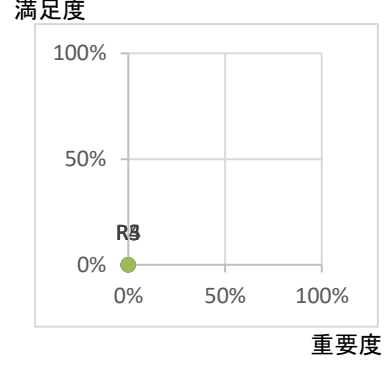
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度							
	そう思う(満足)						
	どちらかといえば思う						
重要度							
	どちらかといえば重要						
	重要ではない						



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度							
	そう思う(満足)						
	どちらかといえば思う						
重要度							
	どちらかといえば重要						
	重要ではない						



結果分析 設問1の満足度・重要度は現状値未満となった。市民満足度を向上させるため、母子保健事業、医療費助成、子どもの成長・発達の支援等をさらに推進し、子どもを安心して産み育てられるまちづくりを着実に進めていく。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	① 政策の進め方
不妊治療一部の保険適用、HPV(子宮頸がん)ワクチンの接種勧奨再開については、市民が適正に利用していただくよう、さらなる周知が必要である。相談窓口体制の充実、発達相談に関する連携強化等を目的に、令和6年4月から「こども家庭センター」を開設したが、今後も本センターを中心とした各事業に取り組み、子どもを安心して産み育てられるまちづくりを着実に進めていく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいきいき育つまち										作成部署			
R5	政策	3 安全・安心な教育環境が整ったまちづくり										教育文化部			
		SDGsゴール	1	2	4										
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)									
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度					
	政策事業費(予算)	1,095,243	1,432,479	1,406,064	1,000,243	政策費増減額	△ 2,029	337,236	△ 26,415	△ 405,821					
						比較	100%	131%	98%	71%					
	政策事業費(決算)	1,050,792	1,156,317	1,045,536		一般財源増減額	45,491	122,685	20,135	38,904					
					比較	111%	126%	103%	106%						
コスト分析と課題															
耐震補強・大規模改造工事など建築工事に係る経費は、社会情勢の影響などにより材料費が高騰し、年々コストが上昇している。また、施設の老朽化により修繕費などの維持管理経費が大きくなっている。令和4年度からの繰越事業として実施した、校内LAN更新工事によりGIGAスクール関連の経費が大きな予算となっている。学校給食についても物価の上昇により賄材料費の確保が課題となっている。令和5年度は国の交付金を活用し保護者への軽減措置を行った。また、物価上昇などを考慮し、令和6年度に向けて給食費の改正を行った。															
指標評価	総合計画										行政評価				
	3 安全・安心な教育環境が整ったまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度						
	「子どもが安全・安心に通うことができる教育環境が整うまち」と思う市民の割合	%	74.1	79.0	67.5	67.8	66.3	77.9	85.1%	現未	C				
	関連する施策														
	学校施設の耐震化率	%	76.9	100.0	94.3	96.2	98.1	94.9	103.4%	B	B				
	関連する施策														
	関連する施策														
	関連する施策														
	関連する施策														
指標分析と課題															
今年度の六郷小学校昇降口棟耐震補強・大規模改造工事など、毎年校舎の耐震補強工事を着実に実施してきたことにより、年々耐震化率が上昇している。しかし、市民アンケートの結果は昨年度より下がっている状況である。これは、近年の大規模災害の発生など学校施設だけの問題ではなく、防災体制や感染症への影響など市民の不安感が増していることに要因があるのではないかと考える。															
評価分析	関連施策														
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価				R7年度						
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○	縮減化△				
	1 学校施設を適正に維持管理し耐震化や長寿命化に努めます	教育総務課	B		A	維持	維持	①							
2 安全で安心して教育が受けられる環境づくりに努めます	学校教育課、教育総務課	S		A	維持	維持	①								
3 安全でおいしい給食を安定的に提供します	教育総務課	S		A	維持	維持	①								

市民アンケート結果

総合評価

設問	1 「子どもが安全・安心に通うことができる教育環境が整うまち」と思う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度	74.1%	79.0%	67.5%	67.8%	66.3%	そう思う(満足)	9.3%	どちらかといえば思う	57.0%	
			85.4%	85.8%	83.9%	どちらかといえば思わない	25.8%	そう思わない(不満)	4.5%	
重要度			89.7%	89.3%	88.3%	重要	52.6%	どちらかといえば重要	35.7%	
						重要ではない	7.5%			

満足度

0% 50% 100%

重要度

設問	1 「子どもが安全・安心に通うことができる教育環境が整うまち」と思う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)		
重要度						重要		どちらかといえば重要		
						重要ではない				

満足度

0% 50% 100%

重要度

設問	1 「子どもが安全・安心に通うことができる教育環境が整うまち」と思う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)		
重要度						重要		どちらかといえば重要		
						重要ではない				

満足度

0% 50% 100%

重要度

設問	1 「子どもが安全・安心に通うことができる教育環境が整うまち」と思う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)		
重要度						重要		どちらかといえば重要		
						重要ではない				

満足度

0% 50% 100%

重要度

結果分析	子どもが安全・安心に通うことができる教育環境が整うまちの満足度、重要度ともに昨年度より少し下がっているが、高い評価を受けている。着実に毎年耐震補強工事など、学校施設の整備を実施している結果である。また、老朽化している施設もあるが適切な修繕や維持管理を行っている。また、安心安全でおいしい給食の提供を行い、保護者負担の軽減にも取り組んでいる。												
総合判定評価	A	見直し・検討無し				R7年度の方向性	コスト	成果	改善				
							維持→	維持→	③	政策内容			
令和5年度は六郷小学校昇降口棟の耐震補強工事を実施し、耐震化率を向上させることができた。今後も子どもの安全・安心な教育環境を整えるため、耐震化率100%を目標に実施していく。令和6年度に菊川東中学校の技術棟を校舎内に移設する予定であり、完了すれば耐震化率100%になる。また、耐震化に合わせ、老朽化による施設の改修を行い、校舎の長寿命化を図る必要がある。													

政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいきいき育つまち								作成部署
R5	政策	4 子どもの「生きる力」を育むまちづくり								教育文化部
		SDGsゴール	4	17						
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	政策事業費(予算)	205,065	233,139	278,839	300,992	政策費増減額	△ 77,556	28,074	45,700	22,153
	政策事業費(決算)	185,910	226,297	273,297		一般財源増減額	△ 44,435	35,780	52,194	27,686
					比較	73%	114%	120%	108%	
					比較	80%	120%	125%	110%	
	令和6年度には小学校教科書が改訂になることからその準備として、教師用教科書・指導書、デジタル教書や教材の購入を行ったため決算額が大きく増加している。4年に一度の改訂があることからそのための経費は必要になる。個別最適な学びを提供するために支援員の配置など人員を確保する必要がある。									

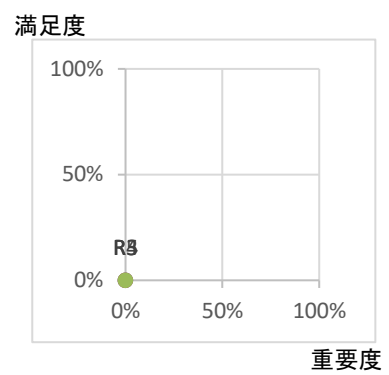
指標評価	総合計画										行政評価
	4 子どもの「生きる力」を育むまちづくり	単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価
			A	B	C			D	C/D		
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度		
	「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合<小学校>	%	92.0	93.0	94.1	93.4	93.1	92.8	100.3%	S	B
	関連する施策										
	「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合<中学校>	%	87.3	90.0	92.3	91.5	92.7	89.4	103.7%	S	B
	関連する施策										
	「授業がわかる」と答える児童生徒の割合<小学校>	%	91.9	93.0	91.9	93.0	91.6	92.8	98.8%	現未	B
	関連する施策										
「授業がわかる」と答える児童生徒の割合<中学校>	%	83.4	85.0	87.4	87.8	86.0	84.6	101.6%	S	B	
関連する施策											
「信頼できる先生がいる」と答える児童生徒の割合<小学校>	%	90.6	91.0	94.1	94.8	93.0	90.9	102.3%	S	B	
関連する施策											
「信頼できる先生がいる」と答える児童生徒の割合<中学校>	%	80.4	85.0	88.3	88.9	88.0	84.0	104.8%	S	B	
関連する施策											
全国学力学習状況調査における平均正答率(全国を100)	%	103.7	104.7	99.6	99.2	99.2	104.5	94.9%	現未	B	
関連する施策											
指標分析と課題	「学校が楽しい」「授業がわかる」「信頼できる先生がいる」と答える児童生徒の割合は年度により多少増減があるが、5つの項目で令和7年度目標を上回っている。学力調査の結果は前年度と同数値となった。ICTを活用した授業やきくがわ21世紀型授業により質の高い授業、不登校児童生徒への対応などきめ細かな対応を行っていく必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R7年度拡充化○縮減化△		
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性	コスト	成果	改善	
	1 ICT環境を生かした魅力ある授業づくりを推進します	学校教育課	現未	S	A	維持	維持	①		
	2 「一人ひとりが生きる教育」を推進します	学校教育課	現未		A	維持	維持	①		
3 中学校区等を核とした学びの環境づくりを推進します	学校教育課		S	A	維持	維持	①			

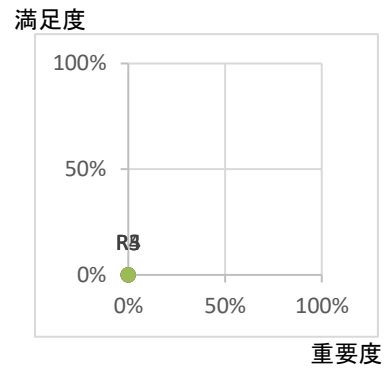
市民アンケート結果

総合評価

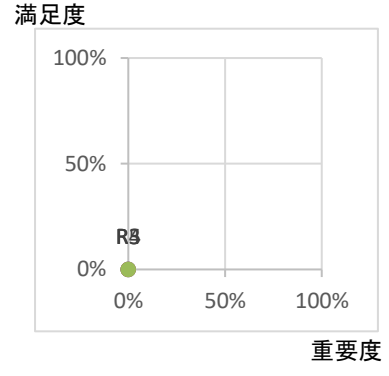
設問					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)		
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度					そう思う(満足) どちらかといえば思う どちらかといえば思わない そう思わない(不満)
重要度					重要 どちらかといえば重要 重要ではない



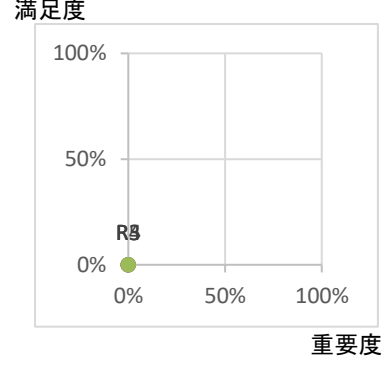
設問					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)		
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度					そう思う(満足) どちらかといえば思う どちらかといえば思わない そう思わない(不満)
重要度					重要 どちらかといえば重要 重要ではない



設問					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)		
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度					そう思う(満足) どちらかといえば思う どちらかといえば思わない そう思わない(不満)
重要度					重要 どちらかといえば重要 重要ではない



設問					
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)		
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度					そう思う(満足) どちらかといえば思う どちらかといえば思わない そう思わない(不満)
重要度					重要 どちらかといえば重要 重要ではない



結果分析 ※市民アンケート結果なし

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	③ 政策内容
ICTを活用した授業やきくがわ21世紀型授業により、質の高い授業が行われている。令和5年度は教科書改訂による準備が行われた。今後も更なるICTを活用した教育の推進を図っていく。また、適用指導教室の運営や心の教育相談員の配置などによりきめ細かな指導を実施していく。なお、令和6年度からは全ての学校でコミュニティスクールを導入する計画であり、地域と学校が連携して児童の育成に努めていく。今後は一人一台端末の更新が必要になるため、更新方法や更新時期を検討していく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	1 子どもがいきいき育つまち								作成部署
R5	政策	5 人を育み、若者を育てるまちづくり								教育文化部
		SDGsゴール	4	17						
		事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
政策事業費(予算)		13,057	15,507	15,233	20,174	政策費増減額	△ 3,962	2,450	△ 274	4,941
						比較	77%	119%	98%	132%
政策事業費(決算)		11,918	14,214	14,804		一般財源増減額	△ 3,623	2,285	△ 308	3,427
						比較	78%	118%	98%	123%
コスト分析と課題		新型コロナウイルス感染症の対応も5類となり、イベントや講座の回数や人数も増加し、決算額も増加している。イベントや事業の実施方法の検討などにより目標に向けた取り組みが必要である。図書館では電子図書館の導入を進めているため令和6年度以降は経費の増加が見込まれている。								

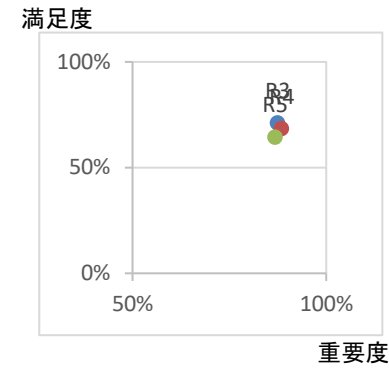
総合計画										行政評価
5 人を育み、若者を育てるまちづくり										指標評価
	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標
		H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度		
「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められている」と思う市民の割合	%	72.4	82.0	71.0	68.4	64.3	79.9	80.5%	現未	C
関連する施策										
12歳以下の児童図書年間貸出冊数(1人あたり)	冊	28.7	33.0	34.1	33.0	31.9	32.0	99.5%	B	B
関連する施策										
関連する施策										
関連する施策										
関連する施策										
指標分析と課題	市民アンケートである「学校・家庭・地域が一体となって子どもを育むまちづくりが進められている」の数値は減少している。令和6年度からは学校のコミュニティスクール化により更に地域と一体となった教育を進めていく。家庭教育を充実させる事業として家庭教育学級を実施しているが、施策にあった事業を検討してもらふ必要がある。									

関連施策										
評価分析	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R7年度		
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性		拡充化○	縮減化△	
						コスト	成果	改善		
	1 地域で子どもを守り育てる取り組みを進めます	社会教育課	現未		B	維持	拡充	①		
	2 家庭の教育力向上に取り組みます	社会教育課	S		A	維持	維持	①		
	3 子どもの読書活動を推進します	図書館	B		A	維持	維持	③		

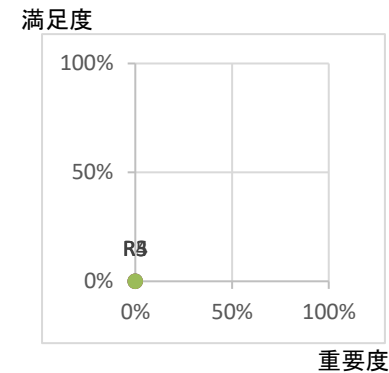
市民アンケート結果

総合評価

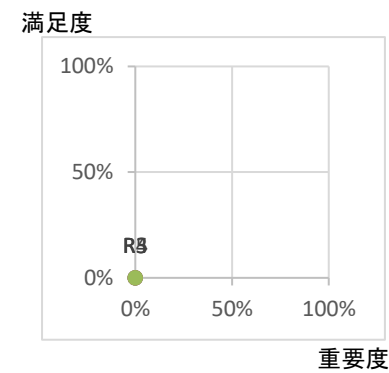
設問	1 「学校・家庭・地域が一緒になって子どもを育むまちづくりが進められている」と思う市民の割合								
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)						
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度				
満足度	72.4%	82.0%	71.0%	68.4%	64.3%	そう思う(満足)	7.5%		
						どちらかといえば思う	56.8%		
			86.6%	83.4%	78.4%	どちらかといえば思わない	27.8%		
重要度			87.5%	88.5%	86.8%	重要	42.0%		
						どちらかといえば重要	44.8%		
						重要ではない	8.5%		



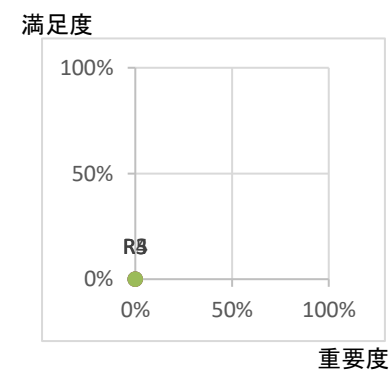
設問									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)						
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度				
満足度						そう思う(満足)			
						どちらかといえば思う			
						どちらかといえば思わない			
重要度						重要			
						どちらかといえば重要			
						重要ではない			



設問									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)						
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度				
満足度						そう思う(満足)			
						どちらかといえば思う			
						どちらかといえば思わない			
重要度						重要			
						どちらかといえば重要			
						重要ではない			



設問									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)						
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度				
満足度						そう思う(満足)			
						どちらかといえば思う			
						どちらかといえば思わない			
重要度						重要			
						どちらかといえば重要			
						重要ではない			



結果分析 市民アンケートから満足度、重要度も減少している。コロナの影響などから学校と地域、家庭とのつながりや希薄化が進んでいることからの結果であると考え。学校、地域、家庭が連携することで、皆で子どもや、若者を育てる取り組みを進める必要がある。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	維持→	③ 政策内容
青少年健全育成事業や放課後子ども教室など地域や企業の協力をいただきながら、子どもたちや若者を育てる環境を整えていく。また、図書館は月曜日以外を基本として閉館することで読書活動の推進に努めている。更には電子図書館を導入することで時間外や休館日にも本を借りられる環境を整える。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち								作成部署
R5	政策	1 適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくり								健康福祉部
		SDGsゴール	3							
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	政策事業費(予算)	589,223	528,054	357,103	106,650	政策費増減額	475,531	△ 61,169	△ 170,951	△ 250,453
						比較	518%	90%	68%	30%
	政策事業費(決算)	502,016	424,006	306,323		一般財源増減額	18,550	7,253	20,263	△ 29,202
					比較	122%	107%	118%	78%	
コスト分析と課題 施策1については、第3次菊川すこやかプラン策定(R4:アンケート、R5:策定)年度であったため、例年と比較すると事業費の増加がみられた。 施策4の予防接種事業のうち、新型コロナワクチン接種事業については、繁忙期や閑散期の状況に応じて、従事者数や従事時間の調整を行い、人件費の抑制に努めた。 令和4年度に企業版ふるさと納税寄付金を活用して購入した車両や健康測定機器を活用し、出張健康相談事業を開始するとともに、その他の事業についても、概ね計画どおり事業を実施することができた。 引き続き、事業実施に必要な予算確保及び適切な執行をしていく必要がある。										

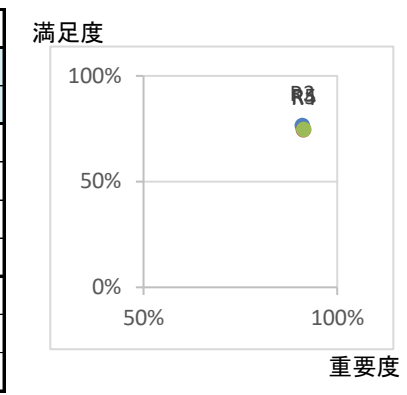
指標評価	総合計画										行政評価
	1 適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度		
	「心身ともに健やかに生活できるまち」と思う市民の割合	%	79.5	85.0	76.4	74.5	74.6	83.8	89.0%	現未	C
	関連する施策										
	「健康づくりに取り組む人が増えているまち」と思う市民の割合	%	65.3	75.0	64.4	61.5	60.3	72.8	82.8%	現未	C
	関連する施策										
	「健診や健康相談など病気の予防対策が充実しているまち」と思う市民の割合	%	65.5	76.0	68.3	67.2	65.3	73.7	88.6%	現未	C
	関連する施策										
	一般成人 栄養のバランスに「気をつけている」と「少し気をつけている」人の割合	%	88.4	90.0	R4実施	88.7	R11実施	-	-	-	-
関連する施策											
一般成人 「普段運動をしている」人の割合	%	37.9	45.0	R4実施	38.4	R11実施	-	-	-	-	
関連する施策											
関連する施策											
関連する施策											
指標分析と課題	健康寿命の延伸と健康格差の縮小を図るため、全ての年代においてライフステージに応じた健康づくりに取り組み、生活習慣病の発症予防と重症化予防など、市民一人ひとりが自分の健康に関心を持ち、健康的な生活習慣を実践できるよう支援している。 指標評価において、実績値について減少傾向が続いており、全ての指標において目標値を下回っている。 令和6年度から令和17年度までを期間とする「第3次菊川すこやかプラン」を策定したことから、今後も健康寿命の延伸と健康格差の縮小を目標に、「食育・食生活」、「運動」、「運動」など6つの領域について、ライフステージ別による健康づくり活動を推進していく必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R7年度拡充化○縮減化△		
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性		コスト	成果	改善
	1 健康増進事業の実施によりみんなの健康を作ります	健康づくり課	S		B	維持	拡充	③		
	2 検診事業の実施によりみんなの健康を維持します	健康づくり課	現未		A	維持	維持	①		
	3 心の健康事業の実施によりみんなの心の健康を作ります	健康づくり課	現未		A	維持	維持	①		
4 予防接種事業の実施により疾病予防を行います	健康づくり課	S	S	C	縮小	維持	③			

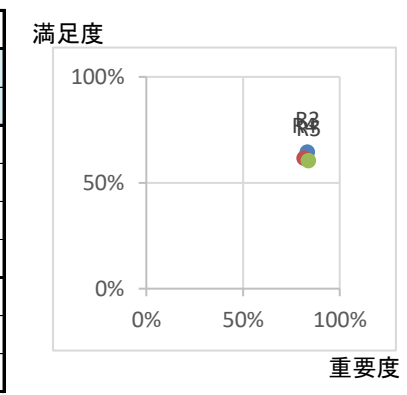
市民アンケート結果

総合評価

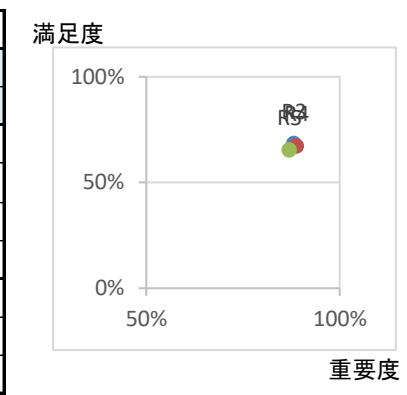
設問	1 「心身ともに健やかに生活できるまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度	79.4%	85.0%	76.4%	74.5%	74.6%	そう思う(満足)	11.9%
						どちらかといえば思う	62.7%
			89.9%	87.6%	87.8%	どちらかといえば思わない	19.1%
重要度			91.0%	91.3%	91.4%	そう思わない(不満)	3.9%
						重要	46.6%
						どちらかといえば重要	44.8%
					重要ではない	4.6%	



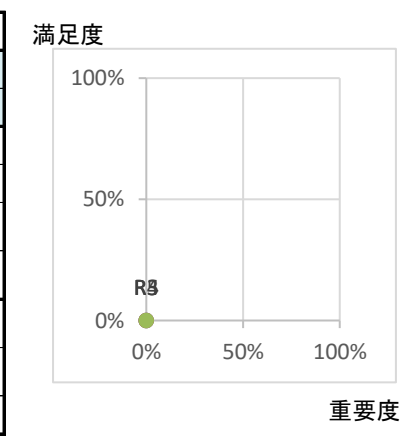
設問	2 「健康づくりに取り組む人が増えているまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度	65.3%	75.0%	64.4%	61.5%	60.3%	そう思う(満足)	5.8%
						どちらかといえば思う	54.5%
			85.9%	82.0%	80.4%	どちらかといえば思わない	34.0%
重要度			83.3%	81.6%	83.9%	そう思わない(不満)	3.2%
						重要	28.3%
						どちらかといえば重要	55.6%
					重要ではない	11.9%	



設問	3 「健診や健康相談など病気の予防対策が充実しているまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度	65.5%	76.0%	68.3%	67.2%	65.3%	そう思う(満足)	10.4%
						どちらかといえば思う	54.9%
			89.9%	88.4%	85.9%	どちらかといえば思わない	28.4%
重要度			88.2%	88.8%	87.0%	そう思わない(不満)	3.9%
						重要	41.6%
						どちらかといえば重要	45.4%
					重要ではない	8.8%	



設問	満足度や重要度について、全体的に低下傾向が見られる。設問2の重要度については、前年度より2.3ポイント上昇した。重要度については約85~90%となっているため、満足度向上に向け、令和5年度に策定した「第3次菊川すこやかプラン」に基づき、効果的な事業実施を進めていく必要がある。						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
区分	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
					重要ではない		



結果分析	満足度や重要度について、全体的に低下傾向が見られる。設問2の重要度については、前年度より2.3ポイント上昇した。重要度については約85~90%となっているため、満足度向上に向け、令和5年度に策定した「第3次菊川すこやかプラン」に基づき、効果的な事業実施を進めていく必要がある。									
総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)			R7年度の方向性		コスト	成果	改善	
							維持→	拡充↑	③	政策内容
「適度な運動や正しい食生活でみんなが健康なまちづくり」を進めるためには、若い時期から健康に関心を持ち、健康への意識を高めてもらう必要がある。 令和6年度から令和17年度までを期間とする「第3次菊川すこやかプラン(第4期健康増進計画・第3期食育推進計画・第2次自殺対策行動計画)」を策定したことから、今後も健康寿命の延伸と健康格差の縮小を目標に、「食育・食生活」、「運動」、「休養・こころ」、「アルコール・たばこ・薬物」、「歯と口の健康」、「健康管理」の6つの領域について、積極的な情報発信や啓発活動を行い、行動変容及び継続に繋がるよう、ライフステージごとの取り組みを進めていく。										

政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち												作成部署
R5	政策	2 高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくり												健康福祉部
		SDGsゴール	1	3	8	10	17							
コスト評価	事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)							
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度						
	政策事業費(予算)	614,607	628,668	648,687	643,627	政策費増減額	△ 41,795	14,061	20,019	△ 5,060				
	政策事業費(決算)	607,957	603,399	624,156		一般財源増減額	△ 21,947	5,540	11,393	12,294				
コスト分析と課題		令和5年度は、3年に1度の「東部ふれあいプラザ」の指定管理や、「第10次高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画」の策定年度であったため、事業費が増加した。その他、介護保険事務処理システム改修費や介護保険特別会計への繰出金の増額等により、事業費が増加している。 敬老会の開催を始め、在宅福祉サービスや介護サービスを提供するための各事業は適切に実施できている。高齢者を取り巻く環境の変化を踏まえ、適切な予算確保及び執行に努める必要がある。												

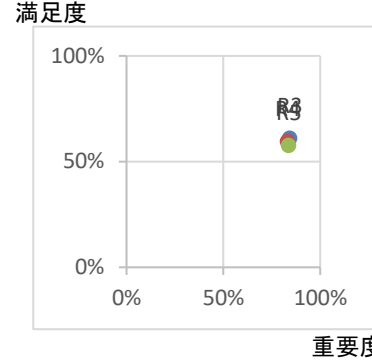
総合計画											行政評価
2 高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価	
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度				
「高齢者が生きがいをもち、健やかに暮らせるまち」だと思ふ市民の割合	%	59.9	70.0	60.9	59.5	57.6	67.8	85.0%	現未	C	
関連する施策											
「高齢者とその家族を支える介護サービスが充実しているまち」だと思ふ市民の割合	%	55.9	66.0	60.1	56.0	56.5	63.8	88.6%	B	C	
関連する施策											
要支援・要介護認定を受けていない高齢者の割合	%	85.2	82.8	85.5	85.7	85.6	83.3	102.7%	S	B	
関連する施策											
関連する施策											
関連する施策											
関連する施策											
指標分析と課題	高齢者ができる限り住み慣れた地域で、生きがいを感じながら安心していきいきと暮らし続けることができるよう、地域包括支援センターの機能強化や介護予防に関する取り組みの強化、高齢者を支えるサービスの充実を図るための取り組みを進めている。 指標評価2については、前年度より0.5ポイント上昇している。指標評価3については、前年度の実績値から0.1ポイント低下したが、目標値は達成している。 今後しばらく続く高齢者人口の増加を踏まえ、令和5年度に策定した「第10次高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画」に基づき、介護予防に関する取り組みや認知症への対応、在宅医療・介護を継続的に提供するための関係機関との連携について充実していく必要がある。										

関連施策										
評価分析	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R7年度拡充化○縮減化△			
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性				
					コスト	成果	改善			
	1 高齢者の介護予防と生きがいづくりを進めます	長寿介護課	C	A	拡充	拡充	②			
	2 地域包括ケアの体制を充実します	長寿介護課	S	A	維持	拡充	①			
	3 高齢者の生活を支援する介護サービスを推進します	長寿介護課	S	A	維持	維持	①			

市民アンケート結果

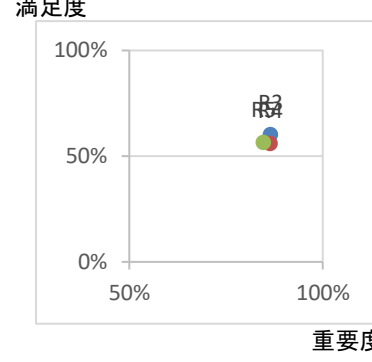
設問 1 「高齢者が生きがいをもち、健やかに暮らせるまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度	59.9%	70.0%	60.9%	59.5%	57.6%	そう思う(満足)	7.0%
						どちらかといえば思う	50.6%
			87.0%	85.0%	82.3%	どちらかといえば思わない	33.3%
重要度			84.3%	83.2%	83.7%	重要	37.8%
						どちらかといえば重要	45.9%
						重要ではない	12.5%



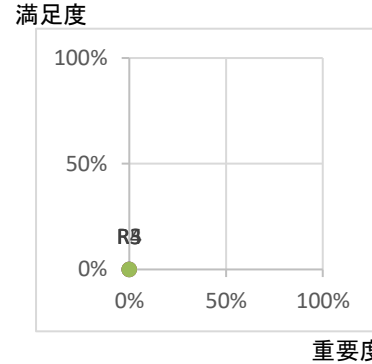
設問 2 「高齢者とその家族を支える介護サービスが充実しているまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度	55.9%	66.0%	60.1%	56.0%	56.5%	そう思う(満足)	7.0%
						どちらかといえば思う	49.5%
			91.1%	84.8%	85.6%	どちらかといえば思わない	33.7%
重要度			86.5%	86.4%	84.7%	重要	44.9%
						どちらかといえば重要	39.8%
						重要ではない	11.2%



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 設問1の重要度と設問2の満足度は、前年度より上昇した。「第10次高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画」で定めた3つの目標、①安心して暮らすことのできる基盤の整備、②生きがいづくりと介護予防の促進、③高齢者を支えるサービスの充実に向けた取り組みを推進していく必要がある。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	③ 政策内容
「高齢者が元気にいきいきと暮らせるまちづくり」を進めるために、3年ごとに策定する「介護保険事業計画・高齢者保健福祉計画」に基づき、計画的に事業を実施している。 今後も高齢者人口が増加していくことから、地域包括ケアシステムの更なる深化・推進を図るため、介護予防事業や認知症施策、在宅医療・介護連携事業、適正な介護保険サービスの提供等を行い、高齢者が健康で活動的に暮らすことができるよう、令和5年度に策定した「長寿いきいき安心プラン(第10次高齢者保健福祉計画・第9期介護保険事業計画)」に沿って事業を進めていく。						

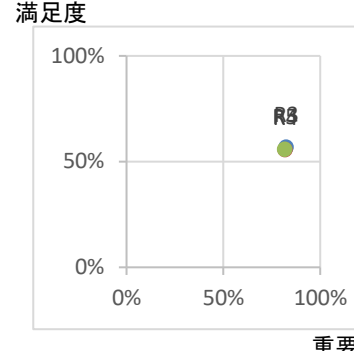
政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち										作成部署
R5	政策	3 地域のなかで、互いに支え合うまちづくり										健康福祉部
		SDGsゴール	1	3	10	11	17					
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	政策事業費(予算)	661,882	624,500	823,592	322,638	政策費増減額	403,870	△ 37,382	199,092	△ 500,954		
	政策事業費(決算)	531,831	497,495	774,447		比較	257%	94%	132%	39%		
	一般財源増減額					比較	106%	114%	110%	87%		
コスト分析と課題	プラザげやき照明設備のLED化、奥の谷地区コミュニティプラントのポンプ修繕、避難行動要支援者名簿の整備、物価高騰対応重点支援給付金事業、市民後見人養成講座の実施、生活保護世帯の増加等に係る事業費が増加した。市民の健康増進・福祉活動の拠点であるプラザげやきは、建設から24年が経過しており、修繕箇所も増えていることから、公共施設個別施設計画を目的としながらも、状況に応じ、予算確保及び整備を行っていく必要がある。その他、地域福祉活動推進のための事業や、生活困窮者等に係る対応については、社会情勢に沿った緊急かつ応急的対策を引き続き行っていく必要がある。											
指標評価	総合計画										行政評価	
	3 地域のなかで、互いに支え合うまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価	
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度			
	「市民同士が地域で互いに支え合うことができているまち」と思う市民の割合	%	65.0	75.0	56.8	55.6	55.8	72.8	76.7%	現未	E	
	関連する施策											
	コミュニティ協議会の福祉部に携わる人数	人	200	220	163	162	143	216	66.2%	現未	E	
	関連する施策											
	関連する施策											
	関連する施策											
	関連する施策											
指標分析と課題	少子高齢・人口減少等の社会構造が変化する中で、市民の複雑化・複合化した生活課題に寄り添い、関連部署や関係機関、市民等と連携したきめ細やかな支援を行うため、市民等が支え合い、地域をともに創っていくことのできる「地域共生社会」の実現に向け、「第4次菊川市地域福祉計画・地域福祉活動計画」に基づき取り組みを進めている。指標評価1については、前年度より実績値が上昇したが、指標評価2については、コロナ禍の影響に加え、地域福祉活動に関わる構成員の高齢化も影響し、前年度より減少していった。引き続き、生活困窮者に対する支援や避難行動要支援者個別避難計画等、地域福祉計画に沿った取り組みを進めていく必要がある。											
評価分析	関連施策											
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R7年度					
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性	コスト	成果	改善	縮減化△		
	1 地域における市民の福祉活動を支援します	福祉課	現未	A	拡充	拡充	①	拡充化○				
	2 地域福祉の担い手を育成・支援します	福祉課	現未	A	拡充	拡充	①	拡充化○				
3 地域のなかでの自立した生活を応援します	福祉課	現未	A	維持	維持	①						

市民アンケート結果

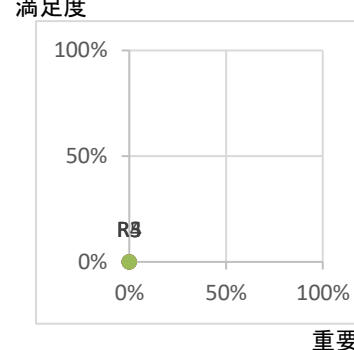
設問 1 「市民同士が地域で互いに支え合うことができているまち」と思う市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度	64.9%	75.0%	56.8%	55.6%	55.8%	そう思う(満足)	5.8%
			75.7%	74.1%	74.4%	どちらかといえば思う	50.0%
						どちらかといえば思わない	35.0%
重要度			82.5%	81.9%	81.8%	重要	30.9%
						どちらかといえば重要	50.9%
						重要ではない	13.9%



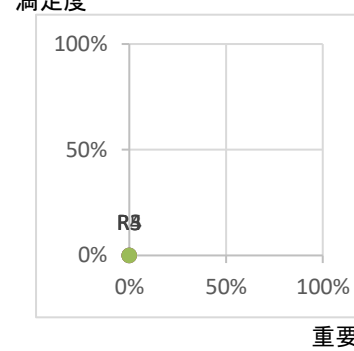
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 前年度より満足度は0.2ポイント上昇、重要度は0.1ポイントの減少となった。コロナ禍以前の状況に戻していくため、「市民同士が地域で互いに支え合うことができるまち」を目指し、地域共生の必要性や重要性について、再認識してもらえるような取り組みを行っていく必要がある。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	拡充↑	③ 政策内容
「地域のなかで、互いに支え合うまちづくりを進めるためには、各種相談支援窓口の周知や相談しやすい窓口づくり(重層的な支援体制づくり)、専門的な人材育成等が必要である。各分野の要となる相談支援窓口間の連携はもとより、相談支援機関間の包括的な連携により、一人ひとりに寄り添った支援が必要である。また、相談支援や課題解決にあたっている身近な組織や人材との連携の強化も必要である。コロナ禍の影響においてより複雑化・複合化した問題については、継続した対応が必要となることや近年頻発する自然災害への対応にあたり、引き続き、地域福祉への理解の醸成や、地域福祉に関わる地域活動者の拡大を図るなど、「第4次菊川市地域福祉計画・地域福祉活動計画」に基づいた取り組みを推進していく。						

政策評価シート

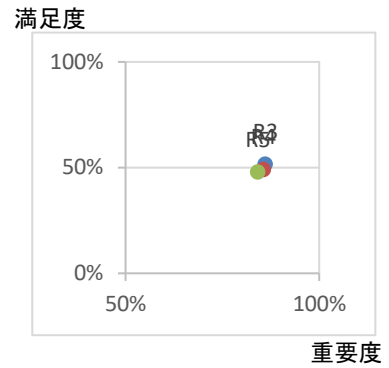
対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち												作成部署
R5	政策	4 障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくり												健康福祉部
		SDGsゴール	3	8	10									
コスト評価	事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)							
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度				
	政策事業費(予算)	1,140,708	1,222,698	1,343,502	1,268,517	政策費増減額	75,902	81,990	120,804	△ 74,985				
						比較	107%	107%	110%	94%				
	政策事業費(決算)	1,107,917	1,189,544	1,311,879		一般財源増減額	12,949	37,765	50,886	△ 21,846				
					比較	104%	110%	112%	95%					
コスト分析と課題													各種障害福祉サービスについて、利用者の増加や利用するサービス単価及び施設の体制加算等により、事業費は増加した。年々事業費は増加しているが、予算に対し適正な執行がされている。施策の多くが国が定める障害福祉サービスの事業費であり、障がいのある人やその家族の生活や活動を支えるために必要な事業でもあるため事業費の削減は難しいが、相談事業所等と連携しながらサービス提供の適正化を図るとともに、適正な支給と予算の確保をしていく必要がある。	

指標評価	総合計画										行政評価
	4 障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度		
	「障がいのある人が安心して暮らしていけるまち」だと思える市民の割合	%	43.5	59.0	51.6	49.1	47.8	55.6	86.0%	B	C
	関連する施策										
	自立支援給付等決定対象者数	人	363	482	484	522	555	456	121.8%	S	A
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	障がいの有無にかかわらず、全ての人が社会の一員として、様々な活動への参加を通じて互いの理解を深め、尊重し合い、支え合うことで、安心して地域での生活を継続することができるよう、障害福祉サービス事業を実施している。指標評価1については前年度より1.3ポイント減少してしまった。指標評価2の自立支援給付等決定対象者数については年々人数が増加している。サービスを必要とする人が、必要とするサービスを受けることができるよう制度の周知をするとともに、適正な支給決定に努める必要がある。また、サービス提供の適正化を図ると共に、障害福祉サービス提供体制の整備や福祉人材の確保も行っていく必要がある。										

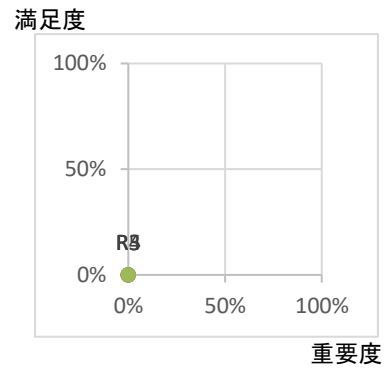
評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R7年度			
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△
	1 障がいのある人の自立した生活を支援します	福祉課	S	A	拡充	拡充	①	拡充化○		
	2 障がいのある人の地域での活動を促進します	福祉課	B	A	拡充	拡充	②	拡充化○		
3 障がいのある子どもの福祉サービスを充実します	福祉課	S	A	拡充	拡充	①	拡充化○			

市民アンケート結果

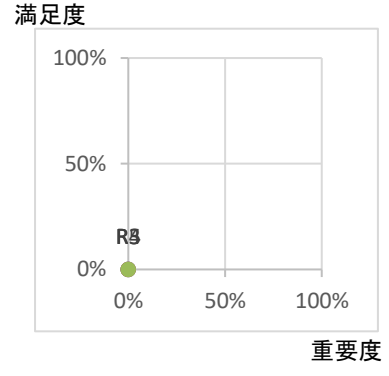
設問	1 「障がいのある人が安心して暮らしていけるまち」だと思える市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度	43.5%	59.0%	51.6%	49.1%	47.8%	そう思う(満足)	3.4%
						どちらかといえば思う	44.4%
			87.5%	83.2%	81.0%	どちらかといえば思わない	41.0%
重要度			86.1%	85.6%	84.2%	重要	40.3%
						どちらかといえば重要	43.9%
						重要ではない	11.9%



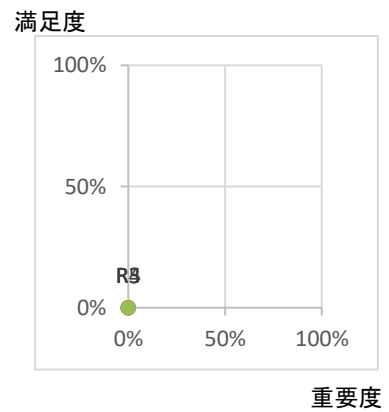
設問	1 「障がいのある人が安心して暮らしていけるまち」だと思える市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	1 「障がいのある人が安心して暮らしていけるまち」だと思える市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問	1 「障がいのある人が安心して暮らしていけるまち」だと思える市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 満足度及び重要度とも、前年度より低下してしまった。特に重要度は、令和2年度より年々低下しており、過去最低値を更新してしまった。但し、84.2%の人が「重要」または「どちらかといえば重要」と考えていることから、「障がいのある人が安心して暮らすことができる」まちを目指し、障がいに対するまち全体の意識や理解を高めていく必要がある。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	③ 政策内容
「障がいのある人が地域のなかで、安心して暮らすことができるまちづくり」を進めるためには、地域生活の継続支援や就労支援など、障害福祉サービスの提供体制を整え、地域全体で支える仕組みが必要である。地域生活支援事業や障害福祉サービス事業については、利用者の状況やサービス利用動向を的確に把握し、サービスニーズに応えることができるよう事業を推進するとともに、必要な予算確保と適正支給に努める必要がある。令和5年度には、掛川市・御前崎市・菊川市の3市にて、「第3次東遠地域広域障害者計画」及び「第7期東遠地域広域障害福祉計画・第3期東遠地域広域障害児福祉計画」を一体的に策定したことから、障がいのある人が自立した日常生活や社会生活ができるよう、障害者福祉サービスや地域生活支援事業を推進するとともに、障害者福祉サービス等を推進する仕組み作りを進めていく。						

政策評価シート

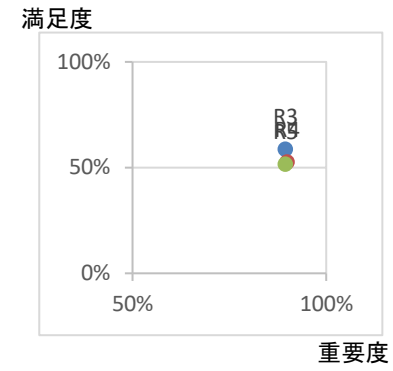
対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち								作成部署	
R5	政策	5 入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり								菊川病院	
		SDGsゴール	3	17							
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)						
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度			
	政策事業費(予算)	1,206,735	1,229,636	1,183,739	1,077,212	政策費増減額	58,484	22,901	△ 45,897	△ 106,527	
	政策事業費(決算)	1,206,653	1,229,613	1,182,603		一般財源増減額	82,144	△ 10,230	△ 14,272	△ 113,092	
					比較	105%	102%	96%	91%		
					比較	107%	99%	99%	90%		
コスト分析と課題	地方公営企業法の規定による一般会計と公営企業会計との経費負担区分の原則に基づき、総務省から示された「地方公営企業繰出基準」に従い、一般会計から繰り入れられているものである。近年は病院の経営状況の悪化に伴い、繰入金額が増加しており、病院側の早急な経営改善が急務となっている。										
総合計画											
指標評価	5 入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度		
	「入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまち」だと思う市民の割合	%	46.7	62.0	58.6	52.5	51.5	58.6	87.9%	B	C
	関連する施策										
	菊川病院への紹介率	%	35.6	40.0	38.7	34.1	49.3	39.0	126.3%	S	A
	関連する施策										
	菊川病院からの逆紹介率	%	27.7	30.0	26.0	21.3	34.2	29.5	116.0%	S	A
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	新型コロナウイルス感染症流行の影響により、前年度までは積極的な医療連携を進めることが困難な状況だったが、今年度に入り感染状況も沈静化してきており、医療連携もコロナ禍前の状況に戻つつある。また、今年度から整形外科の診療体制が一層充実したことにより、これまでよりも遠方からの利用患者が増加したこと、連携先の医療機関も拡大し、紹介・逆紹介率の増に繋がった。										
関連施策											
評価分析	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R7年度			
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△	
	1 医療機関、介護・福祉施設などとの連携を進めます	地域医療支援課	S	S	A	維持	維持	①			
	2 菊川市立総合病院の機能を充実します	病院総務課、健康づくり課	S		A	維持	維持	①			
	3 家庭医養成プログラムを推進します	経営企画課	B		A	維持	維持	①			
4 市民と行政が連携して地域医療支援の充実を目指します	健康づくり課、経営企画課	S		A	維持	維持	①				

市民アンケート結果

総合評価

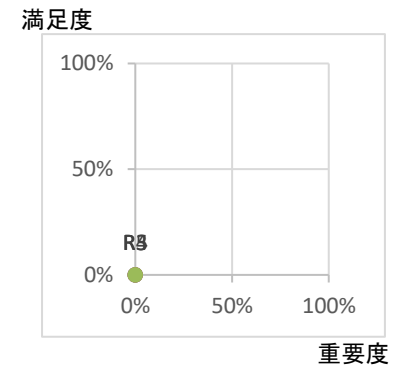
設問 1 「入院から在宅まで安心して医療を受けることができるまち」だと思う市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度	46.7%	62.0%	58.6%	52.5%	51.5%	そう思う(満足)	6.9%
			94.5%	84.7%	83.1%	どちらかといえば思う	44.6%
						どちらかといえば思わない	39.8%
						そう思わない(不満)	7.7%
重要度			89.5%	89.9%	89.5%	重要	52.0%
						どちらかといえば重要	37.5%
						重要ではない	8.1%



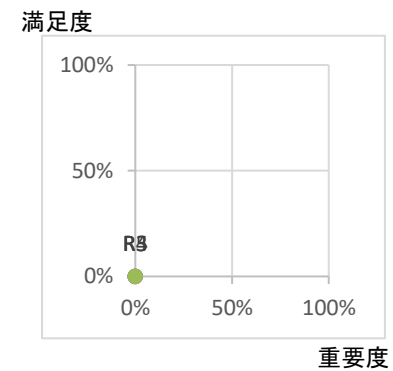
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



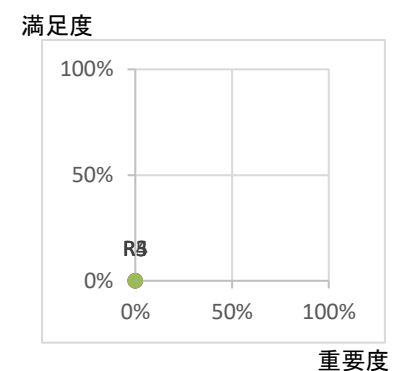
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 重要な設問であると判断されている市民が89.5%に対して、現状については51.5%の方しか満足されていない状況である。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	① 政策の進め方

政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち												作成部署
R5	政策	6 生涯にわたり学べるまちづくり												教育文化部
		SDGsゴール	4	11	17									
コスト評価	事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)							
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度				
	政策事業費(予算)	75,466	78,962	74,897	99,531	政策費増減額	△ 96	3,496	△ 4,065	24,634				
						比較	100%	105%	95%	133%				
	政策事業費(決算)	74,628	77,047	74,300		一般財源増減額	1,722	915	△ 1,968	19,873				
					比較	102%	101%	97%	127%					
コスト分析と課題														
コロナの影響も少なくなり、各種講座やイベントが実施できるため生涯学習活動に係る事業費は大きくなっているが、図書館においては、施設改修工事がなかったことにより事業費が減額になっている。今後は講座などを多く実施することにより、市民の学ぶ機会を多く提供する必要がある。														

指標評価	総合計画											行政評価
	6 生涯にわたり学べるまちづくり	単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価	
			A	B	C			D	C/D			
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度			
	「生涯にわたり学習活動ができるまち」と思う市民の割合	%	51.6	62.0	52.6	52.3	51.3	59.7	85.9%	現未	C	
	関連する施策											
	生涯学習講座の参加者数	人	515	600	44	233	259	581	44.6%	現未	E	
	関連する施策											
	関連する施策											
	関連する施策											
指標分析と課題	コロナ禍の影響もあり、生涯学習における市民意識は低下していると思われる。しかし、コロナの影響も少なくなり生涯学習講座は多く実施することができたため、参加者は前年に比べ大きく増えている。しかしコロナ過前には遠い状態であるため、市民が学べる機会を更に提供していく必要がある。											

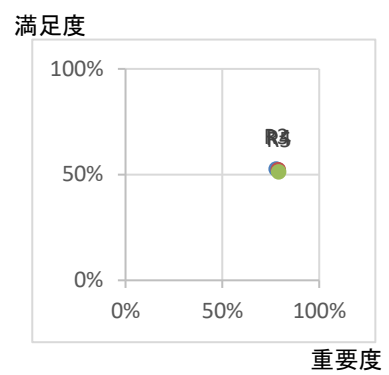
評価分析	関連施策										
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価				R7年度		
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△	
	1 生涯学習活動を推進します	社会教育課	現未		B	維持	拡充	③			
	2 読書環境の整備に努めます	図書館	S		A	維持	維持	②			
3 読書機会の提供・読書活動の啓発に努めます	図書館	現未		A	維持	維持	③				

市民アンケート結果

総合評価

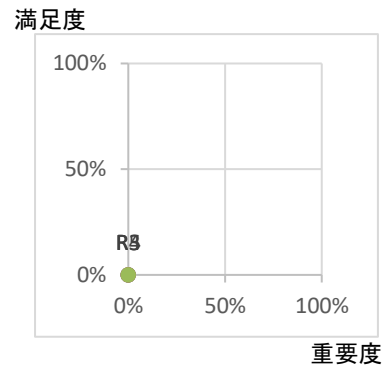
設問 1 「生涯にわたり学習活動ができるまち」と思う市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度	51.6%	62.0%	52.6%	52.3%	51.3%	そう思う(満足)	4.6%
						どちらかといえば思う	46.7%
			84.8%	84.4%	82.7%	どちらかといえば思わない	41.6%
						そう思わない(不満)	5.1%
重要度			77.8%	78.9%	79.2%	重要	22.3%
						どちらかといえば重要	56.9%
						重要ではない	17.7%



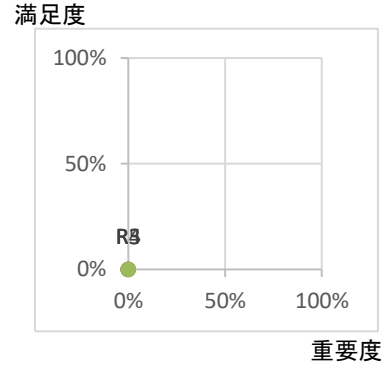
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



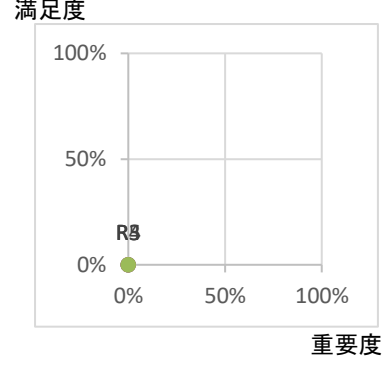
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 満足度は昨年と比較して減少しているが、重要度は上昇している。これは各種講座などが満足に開催できていなかったが、学ぶ機会の提供は必要であるといった意見が多いことからの結果と考える。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	拡充↑	① 政策の進め方
生涯学習だよりや各種講座など新型コロナウイルス感染症対策により縮小して開催したが、令和5年度は多くの事業を実施することができた。今後はさらに活発な活動を推進するため、様々な講座を通じて生涯学習の推進に取り組んでいく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち								作成部署
R5	政策	7 芸術や文化に親しみ歴史・文化遺産が継承され活かされているまちづくり								教育文化部
		SDGsゴール	4	11						
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	政策事業費(予算)	271,865	374,114	386,312	222,882	政策費増減額	113,577	102,249	12,198	△ 163,430
					比較	172%	138%	103%	58%	
	政策事業費(決算)	269,586	366,669	365,743		一般財源増減額	5,429	22,786	16,342	△ 23,837
				比較	104%	116%	110%	87%		
コスト分析と課題		菊川文化会館アエルの設備更新に年々大きな経費がかかっている。令和5年度は大・小ホール <small>の</small> 舞台照明を更新した。また、文化会館振興事業として東アジア文化都市2023に対応した事業を実施した。今後も計画的に設備の更新を実施し、市民に対し安定的に鑑賞機会が提供できる環境を維持していく。								

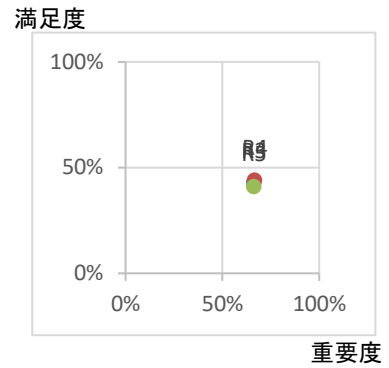
指標評価	総合計画										行政評価
	7 芸術や文化に親しみ歴史・文化遺産が継承され活かされているまちづくり	単位	現状値	目標値	実績値			期待値	達成率	評価	指標評価
			A	B	C			D	C/D		
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度		
	「気軽に芸術文化にふれられるまち」と思う市民の割合	%	39.1	54.0	42.8	44.0	41.0	50.7	80.9%	B	C
	関連する施策										
	「歴史・文化遺産が継承され活かされているまち」と思う市民の割合	%	40.8	56.0	49.9	50.6	48.2	52.6	91.6%	B	B
	関連する施策										
	文化祭の来場者数	人	3,250	4,000	0	1,563	1,488	3,833	38.8%	現未	E
	関連する施策										
関連する施策											
指標分析と課題	市民アンケートの結果から芸術文化活動や歴史・文化遺産が少しずつ定着していると考えられるが、少し低下が見られているため効果的な事業や周知に努める必要がある。2年間中止していた文化祭を令和4年度から開催することができたが、来場者数は少ない状態である。今後も各種団体等への文化活動を支援していく必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R7年度 拡充化○ 縮減化△		
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性	コスト		成果	改善
	1 鑑賞機会の提供に努めます	社会教育課	S		A	維持	拡充	①		
	2 市民の文化・芸術活動を支援します	社会教育課	現未		B	維持	維持	①		
3 文化財の保存・周知・活用を推進します	社会教育課	現未		A	維持	拡充	①			

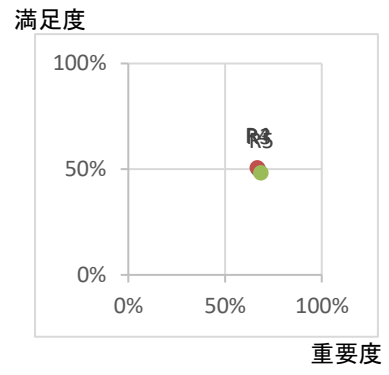
市民アンケート結果

総合評価

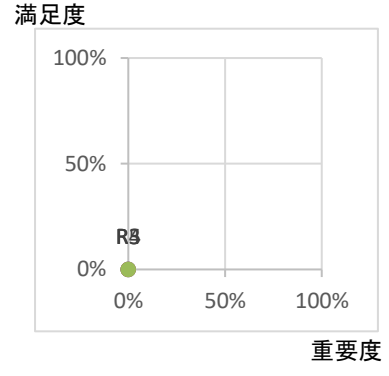
設問	1 「気軽に芸術文化にふれられるまち」と思う市民の割合							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度			
満足度	39.2%	54.0%	42.8%	44.0%	41.0%	そう思う(満足)	3.8%	
						どちらかといえば思う	37.2%	
			79.3%	81.5%	75.9%	どちらかといえば思わない	47.8%	
						そう思わない(不満)	9.8%	
重要度			66.3%	66.7%	66.3%	重要	13.3%	
						どちらかといえば重要	53.0%	
						重要ではない	31.1%	



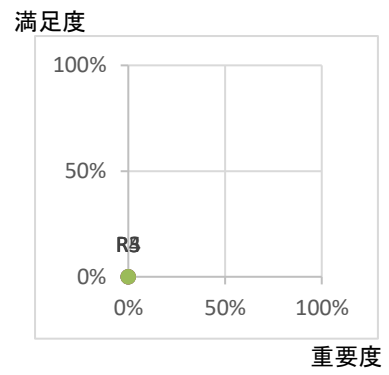
設問	2 「歴史・文化遺産が継承され活かされているまち」と思う市民の割合							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度			
満足度	40.8%	56.0%	49.9%	50.6%	48.2%	そう思う(満足)	5.2%	
						どちらかといえば思う	43.0%	
			89.1%	90.4%	86.1%	どちらかといえば思わない	43.0%	
						そう思わない(不満)	7.4%	
重要度			67.4%	66.8%	68.7%	重要	13.9%	
						どちらかといえば重要	54.8%	
						重要ではない	28.5%	



設問	3 「気軽に芸術文化にふれられるまち」と思う市民の割合							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



設問	4 「歴史・文化遺産が継承され活かされているまち」と思う市民の割合							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)					
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度			
満足度						そう思う(満足)		
						どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		
						そう思わない(不満)		
重要度						重要		
						どちらかといえば重要		
						重要ではない		



結果分析 芸術文化や歴史・文化遺産などに関する満足度は少し減少しているが、重要であるといった認識は多くあると感じる。それぞれが必要とする活動を提供することや、更なる周知に努める必要がある。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	拡充↑	③
令和5年度はコロナ禍前と比べてもほぼ同様の事業を実施することができた。地域文化や地域資源の発信に努め、文化に触れる機会を提供していくことや、文化会館アエルなどの施設が安定して利用できるよう整備計画により順次設備更新などによる長寿命化を実施していく。歴史や文化遺産の保護に努め、更なる周知を行っていくことで市民の満足度を高めていく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	2 健康で元気に暮らせるまち												作成部署
R5	政策	8 スポーツが盛んなまちづくり												教育文化部
		SDGsゴール	3	11	17									
コスト評価	事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)							
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度						
	政策事業費(予算)	88,256	120,306	192,989	130,941	政策費増減額	△ 23,380	32,050	72,683	△ 62,048				
	政策事業費(決算)	87,326	118,615	151,412		比較	79%	136%	160%	68%				
					一般財源増減額	△ 1,277	8,561	7,114	18,480					
					比較	98%	111%	108%	120%					
コスト分析と課題														
スポーツ施設の老朽化などにより、設備の更新に係る経費が大きく増加している。令和5年度は菊川運動公園野球場の防護マット改修、尾花運動公園トイレ洋式化、堀之内体育館の建替えに伴う基本設計などを実施した。今後も適正な維持管理を行うことで安心してスポーツのできる環境を整えていく必要がある。														

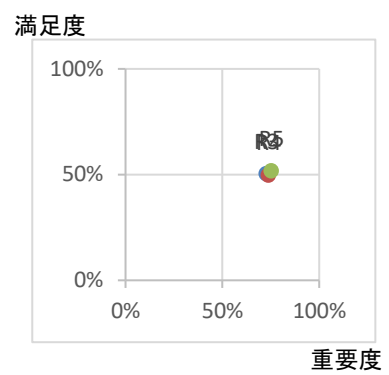
指標評価	総合計画											行政評価
	8 スポーツが盛んなまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価	
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度			
	「誰もが気軽にスポーツに取り組めるまち」だと思ふ市民の割合	%	54.0	59.0	50.4	49.7	51.7	57.9	89.3%	現未	C	
	関連する施策											
	スポーツ施設年間利用者数	人	244,924	255,000	301,062	364,371	379,232	252,761	150.0%	S	S	
	関連する施策											
	関連する施策											
	関連する施策											
	関連する施策											
指標分析と課題	コロナ禍以降スポーツ施設の利用者数も着実に増加している。これと同様に「誰もがスポーツに取り組めるまち」だと思ふ市民の割合も増加している。これは、スポーツ活動に制限がなくなり市内の各団体や市主催・スポーツ協会主催などの事業が再開されスポーツ活動が積極的に行われてきたことだと考える。しかし、老朽化した施設が多いため、維持修繕に努める必要がある。											

評価分析	関連施策										
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価				R7年度			
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○	縮減化△
	1 誰もがスポーツに触れ合う機会を創出します	社会教育課	S		B	維持	拡充	③			
	2 スポーツ活動の場を提供します	社会教育課	S		B	拡充	拡充	①			
3 スポーツ団体・スポーツ活動を支援します	社会教育課	現未		A	維持	維持	①				

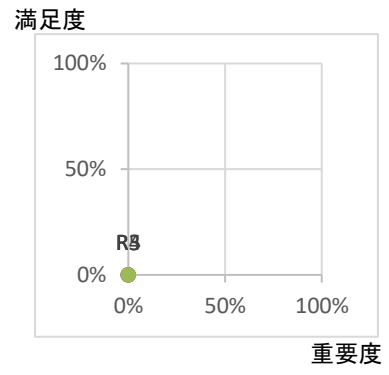
市民アンケート結果

総合評価

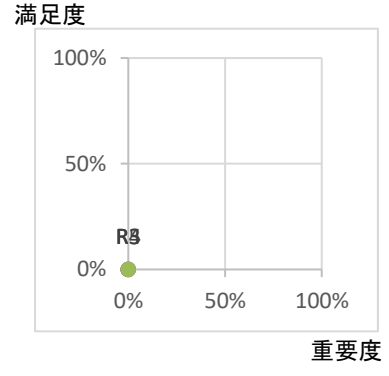
設問	1 「誰もが気軽にスポーツに取り組めるまち」だと思ふ市民の割合										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)								
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度						
満足度	54.0%	59.0%	50.4%	49.7%	51.7%	そう思う(満足)	5.7%	どちらかといえば思う	46.0%		
			85.4%	84.2%	87.6%	どちらかといえば思わない	39.5%	そう思わない(不満)	7.5%		
重要度			72.8%	73.8%	75.3%	重要	18.1%	どちらかといえば重要	57.2%		
						重要ではない	21.8%				



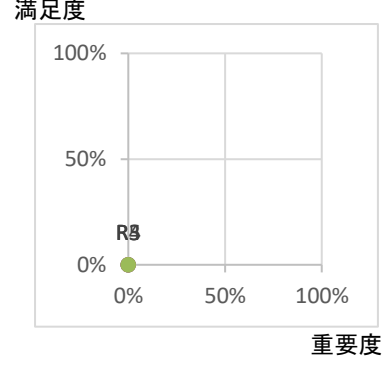
設問											
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)								
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度						
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う			
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)			
重要度						重要		どちらかといえば重要			
						重要ではない					



設問											
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)								
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度						
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う			
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)			
重要度						重要		どちらかといえば重要			
						重要ではない					



設問											
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)								
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度						
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う			
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)			
重要度						重要		どちらかといえば重要			
						重要ではない					



結果分析
スポーツ活動が積極的に行われるようになり、市民の意識も上がっていると思われる。また、スポーツは健康維持や楽しみといったことで重要だと認識されていることがわかる結果である。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	拡充↑	① 政策の進め方
令和5年度は制限もなく主催事業、スポーツ協会主催事業など多くの大会やイベントが開催することができた。今後はスポーツする機会を様々な形で提供しスポーツ振興を進める。また、老朽化した施設が多くなっているため、多くの市民が安全・安心に施設が利用できるよう引き続き適正な維持、管理及び長寿命化に取り組んでいく。						

政策評価シート

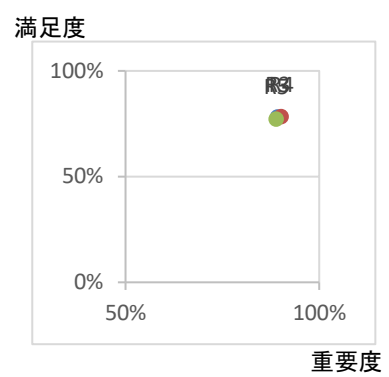
対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち												作成部署
R5	政策	1 農業振興と次世代農業モデルを推進するまちづくり												建設経済部
		SDGsゴール	2	5	8	15								
コスト評価	事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)							
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度				
	政策事業費(予算)	616,344	737,303	611,439	276,259	政策費増減額	201,984	120,959	△ 125,864	△ 335,180				
	政策事業費(決算)	311,369	368,211	573,524		一般財源増減額	△ 27,930	28,594	△ 8,248	△ 36,354				
						比較	149%	120%	83%	45%				
						比較	89%	113%	97%	85%				
	コスト分析と課題	農業振興を図るための予算としては、地域特産物推進事業費補助金や水田高収益作物生産転作推進事業費補助金の活用者が増加しており、成果として表れている。市の施策は農業者のやる気を後押しするものであり、引き続き補助金等の支援は必要である。 事業費の多くは土地改良事業の予算であるが、農地集積等には基盤整備が欠かせない。また、ため池の耐震補強工事により、市民生活の安心・安全を守るため必要な予算である。												
指標評価	総合計画												行政評価	
	1 農業振興と次世代農業モデルを推進するまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価			
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度					
	「安全・安心で魅力ある農産物が生産されているまち」だと思ふ市民の割合	%	78.0	83.0	78.1	78.3	77.2	81.9	94.3%	現未	B			
	関連する施策													
	地域特産作物の開発数	件	0	4	3	3	4	3	133.3%	S	S			
	関連する施策													
	関連する施策													
	関連する施策													
	関連する施策													
	指標分析と課題	経営基盤の強化を図るためにも高収益作物との複合経営を進めており、昨年度より0.2ha増加し順調に転換面積が増加している。地域特産物については、「白ネギ」の生産者が3名増えている。引き続き次世代農業モデルを目指し各種事業を進めていく。												
評価分析	関連施策													
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価				R7年度					
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○	縮減化△			
	1 菊川型農業モデルの創出を図ります	農林課	B		A	維持	維持	①						
	2 経営感覚に優れた担い手の確保と育成を図ります	農林課	S		A	維持	拡充	①						
	3 農業経営基盤の強化を促進します	農林課	S		A	維持	維持	①						
4 農地の適正な管理と利用を促進します	農林課	S		A	維持	維持	①							
5 農業生産基盤の整備と維持管理を行います	農林課	B		A	維持	維持	①							

市民アンケート結果

総合評価

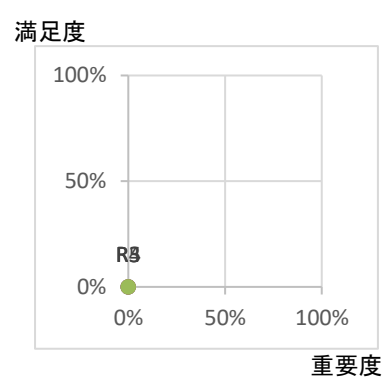
設問 1 「安全・安心で魅力ある農産物が生産されているまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)						
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度			77.9%	83.0%	78.1%	78.3%	77.2%	そう思う(満足)	16.2%
					94.1%	94.3%	93.0%	どちらかといえば思う	61.0%
								どちらかといえば思わない	19.0%
								そう思わない(不満)	2.7%
重要度					89.3%	90.2%	88.9%	重要	40.0%
								どちらかといえば重要	48.9%
								重要ではない	8.6%



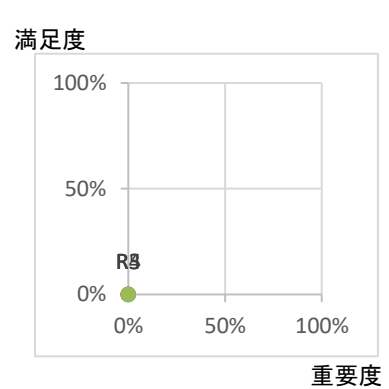
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)						
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度								そう思う(満足)	
								どちらかといえば思う	
								どちらかといえば思わない	
								そう思わない(不満)	
重要度								重要	
								どちらかといえば重要	
								重要ではない	



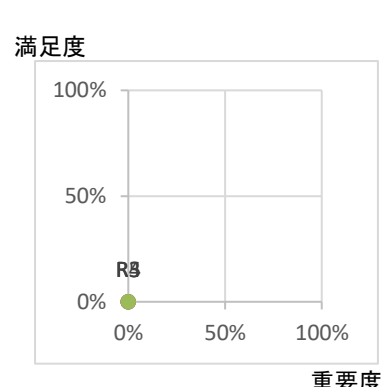
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)						
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度								そう思う(満足)	
								どちらかといえば思う	
								どちらかといえば思わない	
								そう思わない(不満)	
重要度								重要	
								どちらかといえば重要	
								重要ではない	



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)						
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度								そう思う(満足)	
								どちらかといえば思う	
								どちらかといえば思わない	
								そう思わない(不満)	
重要度								重要	
								どちらかといえば重要	
								重要ではない	



結果分析 市民アンケート結果では、満足度において開始時以下、昨年度以下となった。市内には優れた農産物・生産者がたくさん存在するが、まだまだ市民へのPRが足りない。このため引き続き各種事業を推進するとともに情報発信にも力を入れていく。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	① 政策の進め方

高齢化による後継者不足等農業を取り巻く環境は年々厳しくなっている。「みどりの食糧システム戦略」を推進していくにあたり、引き続き、経営基盤の強化・担い手の確保・農地集積・有機農業等の各種事業を実施していく。また、農業委員会等と連携し、荒廃農地解消も進めていく必要がある。

政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち								作成部署
R5	政策	2 活力と魅力のある茶のまちづくり								建設経済部
		SDGsゴール	2	8						
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	政策事業費(予算)	431,923	30,922	24,030	23,352	政策費増減額	7,895	△ 401,001	△ 6,892	△ 678
						比較	102%	7%	78%	97%
	政策事業費(決算)	424,956	29,985	22,834		一般財源増減額	1,404	2,845	△ 869	△ 1,454
					比較	108%	114%	96%	93%	
	菊川茶の生産基盤を維持していくためには、茶農家等への支援は大変重要である。支援の拡大も含め予算化していく必要がある。また、リーフ茶の需要を伸ばすためには消費拡大事業や茶文化の継承も重要であるため、引き続き現予算を確保する必要がある。									

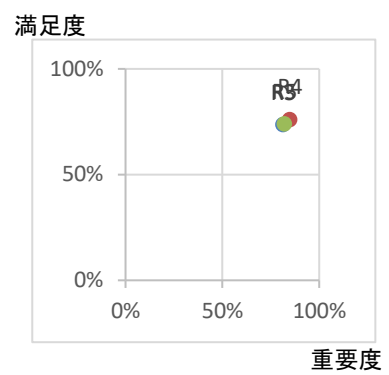
指標評価	総合計画										行政評価
	2 活力と魅力のある茶のまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度		
	「茶の生産が盛んなまち」と思う市民の割合	%	82.7	88.0	73.6	76.0	73.9	86.8	85.1%	現未	C
	関連する施策										
	茶園管理組織経営体数	経営体	5	16	6	6	6	14	42.9%	C	D
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	各茶農協の運営や自園自製農家もさらに厳しくなることが予想されるため、生産・販売を含めた法人化を進める必要があり、法人化した茶農協等の経営内容をさらに進化させ市内の茶農協等への波及が必要である。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R7年度		
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△
	1 活力ある茶業の振興を推進します	茶業振興課	C		B	拡充	拡充	③		拡充化○
	2 茶の消費拡大を図ります	茶業振興課	C		B	維持	拡充	③		拡充化○
3 茶文化を継承します	茶業振興課	B		A	維持	維持	③		拡充化○	

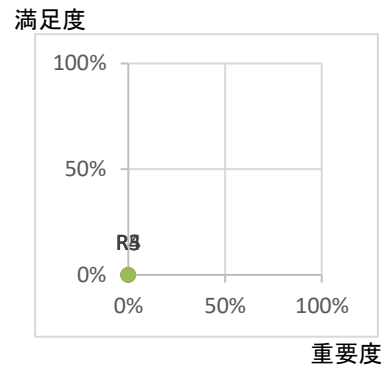
市民アンケート結果

総合評価

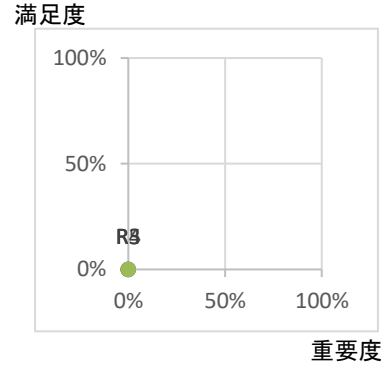
設問	1 「茶の生産が盛んなまち」と思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度	82.7%	88.0%	73.6%	76.0%	73.9%	そう思う(満足)	29.0%
						どちらかといえば思う	44.9%
			83.6%	86.4%	84.0%	どちらかといえば思わない	20.0%
						そう思わない(不満)	5.5%
重要度			81.4%	84.9%	82.0%	重要	35.8%
						どちらかといえば重要	46.2%
						重要ではない	15.3%



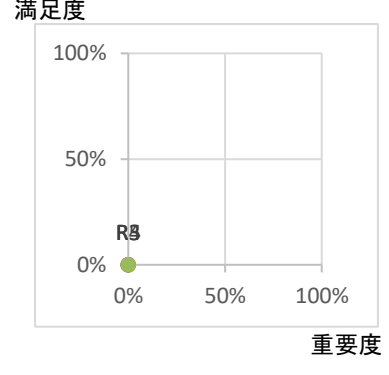
設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 市民アンケート結果については、満足度において開始時以下、昨年度以下となった。茶業が厳しい現状に対して、市民も盛んではなくなっていると感じている結果である。「第2次菊川市茶業振興計画(菊川茶産地持続化計画)」に掲げた事業を確実に推進し、また、GI登録を契機として、茶経営体の強化とともに、消費拡大・販路拡大に向けさらにPRを行っていく必要がある。また、輸出に向けて条件を整える必要がある。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	① 政策の進め方
「第2次菊川市茶業振興計画(菊川茶産地持続化計画)」に掲げた事業を確実に推進し、新たな協議会を立ち上げるなど茶業の課題解決に向けた取り組みを茶業関係者全体で取り組んでいく必要がある。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち										作成部署
R5	政策	3 商工業が活気あるまちづくり										建設経済部
		SDGsゴール	4	5	8	9	10					
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	政策事業費(予算)	903,144	944,249	612,933	573,891	政策費増減額	152,774	41,105	△ 331,316	△ 39,042		
						比較	120%	105%	65%	94%		
	政策事業費(決算)	834,846	820,638	585,493		一般財源増減額	25,368	77,227	△ 111,754	△ 20,454		
					比較	135%	179%	36%	68%			
コスト分析と課題 中小企業等の労働者福祉の増進、商工会が小規模事業者に行う経営改善普及事業等に対する補助、企業誘致に伴う助成など市内商工業者の操業を支援するためには必要な予算である。												

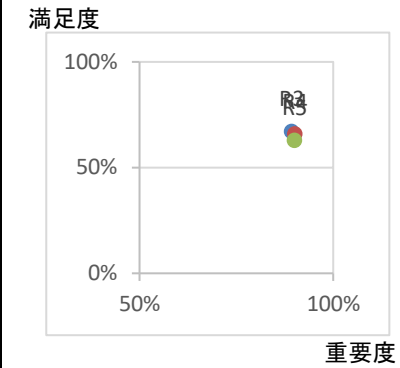
指標評価	総合計画										行政評価
	3 商工業が活気あるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度		
	「買物がしやすいまち」だと思ふ市民の割合	%	60.9	71.0	67.0	65.9	62.8	68.8	91.3%	B	B
	関連する施策										
	「企業(工業関係)に活力があるまち」だと思ふ市民の割合	%	41.5	57.0	52.7	55.8	54.4	53.6	101.6%	B	B
	関連する施策										
	事業所数(二次産業・三次産業の計)	事業所	1,738	1,800	1,663	未公表	未公表	1,786	-	S	-
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	「買物がしやすいまち」「企業(工業関係)に活力があるまち」の指標については、現状値から確実に上昇しており、これまでの取組の成果が表れている。「事業所数」の指標市内においてはコロナ禍の影響による事業所の減少が見られるため、商工会等関係団体との連携と産業支援センターによる起業支援を進める必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R7年度		
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△
	1 就労機会の拡大を図ります	商工観光課	S		A	拡充	拡充	①		
	2 がんばる事業者を応援します	商工観光課	現未		A	維持	維持	③		
3 市内企業の応援と進出企業の獲得に努めます	商工観光課	B		A	維持	維持	③			

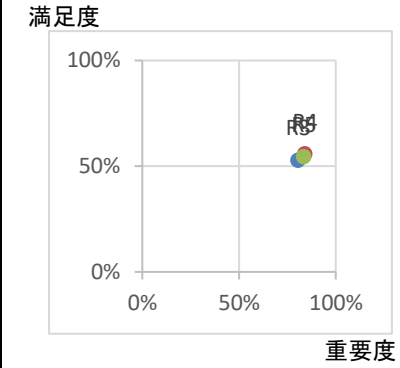
市民アンケート結果

総合評価

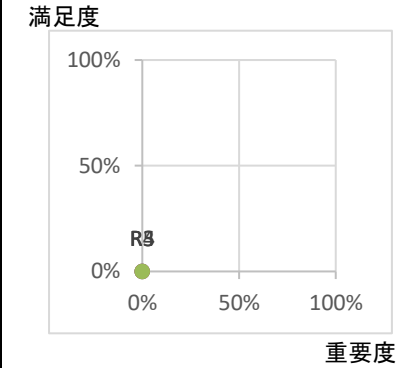
設問	1 「買物がしやすいまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度	60.9%	71.0%	67.0%	65.9%	62.8%	そう思う(満足)		17.6%		
						どちらかといえば思う		45.2%		
			94.4%	92.8%	88.5%	どちらかといえば思わない		27.2%		
						そう思わない(不満)		9.2%		
重要度			89.3%	90.1%	90.0%	重要		48.3%		
						どちらかといえば重要		41.7%		
						重要ではない		7.8%		



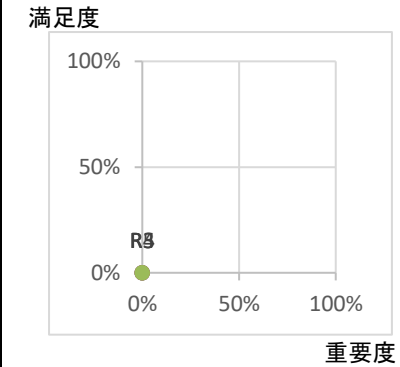
設問	2 「企業(工業関係)に活力があるまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度	41.5%	57.0%	52.7%	55.8%	54.4%	そう思う(満足)		7.4%		
						どちらかといえば思う		47.0%		
			92.5%	97.9%	95.4%	どちらかといえば思わない		37.1%		
						そう思わない(不満)		6.7%		
重要度			80.6%	84.0%	83.5%	重要		30.7%		
						どちらかといえば重要		52.8%		
						重要ではない		13.9%		



設問	3 「買物がしやすいまち」「企業(工業関係)に活力があるまち」の指標									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



設問	4 「買物がしやすいまち」「企業(工業関係)に活力があるまち」の指標									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
重要度						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



結果分析
設問1は開始時以上、昨年度以下となった。設問2は開始時以上、昨年度以下であった。民間開発等による商業施設や商店、住宅地の開発により利便性が向上していると考えられるが、今後に予定している工場用地の造成計画や駅北開発の計画により、さらに満足度を高めていく必要がある。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	③ 政策内容

行政としても商工会等との連携や企業誘致を進めていく必要があるため、民間主導で現在進めている工場用地計画を推進する。また、人口減少の抑制のためにも駅北開発や民間開発の適正な土地利用を図る必要がある。

政策評価シート

対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち										作成部署
R5	政策	4 人が訪れるまちづくり										建設経済部
		SDGsゴール	8	11	17							
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)						
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	政策事業費(予算)	43,531	65,534	73,379	55,203	政策費増減額	△ 177	22,003	7,845	△ 18,176		
						比較	100%	151%	112%	75%		
	政策事業費(決算)	41,734	62,911	69,242		一般財源増減額	△ 5,040	18,263	△ 464	△ 904		
					比較	86%	160%	99%	98%			
コスト分析と課題		本市の認知度向上、交流人口の拡大を推進する予算であり、さらに定住人口の増加や流出抑制を図るためには必要な予算である。										

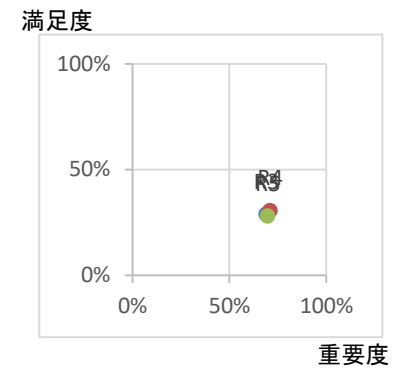
指標評価	総合計画										行政評価
	4 人が訪れるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度		
	「観光や地域間交流など人の交流が盛んなまち」だと思う市民の割合	%	20.7	41.0	28.8	30.6	28.0	36.5	76.7%	B	D
	関連する施策										
	観光交流客数	人	364,388	400,000	238,146	284,066	337,544	392,086	86.1%	現未	C
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	コロナ禍の影響により集客力のあるイベントが全て開催されたわけではなかったが、観光交流客数は増加している。少しずつ元の活気を取り戻しつつあるため、昨年度よりは上昇した。イベント等の開催方法をコロナ前の状況に戻すとともに内容についても充実する必要がある。										

評価分析	関連施策										
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R7年度			
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○	縮減化△
	1 市民力による魅力発信を支援します	商工観光課	S		A	維持	維持	①			
	2 マスコットを活用した情報発信を行います	商工観光課	S		A	維持	維持	③			
3 広域市町と連携した交流人口の増加を図ります	商工観光課	現未		A	維持	維持	③				

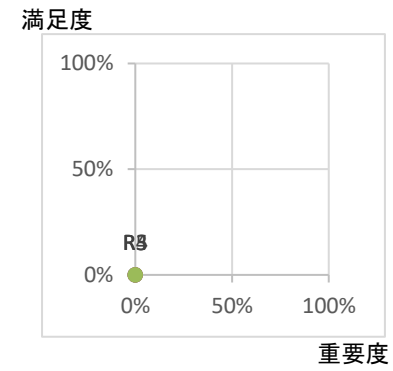
市民アンケート結果

総合評価

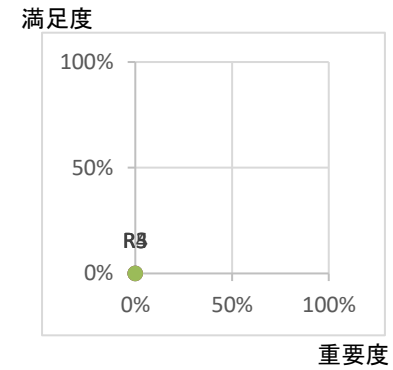
設問	1 「観光や地域間交流など人の交流が盛んなまち」だと思う市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度	20.7%	41.0%	28.8%	30.6%	28.0%	そう思う(満足)	2.2%	どちらかといえば思う	25.8%	
			70.2%	74.6%	68.3%	どちらかといえば思わない	54.9%	そう思わない(不満)	15.7%	
重要度			69.1%	71.0%	69.8%	重要	17.6%	どちらかといえば重要	52.2%	
						重要ではない	27.7%			



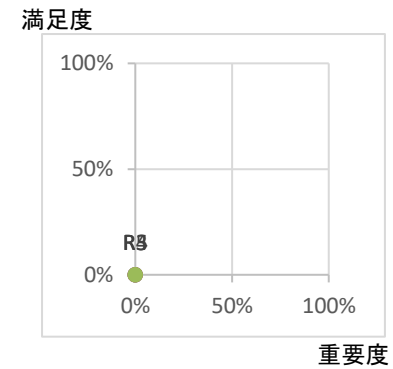
設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)		
重要度						重要		どちらかといえば重要		
						重要ではない				



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)		
重要度						重要		どちらかといえば重要		
						重要ではない				



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)		
重要度						重要		どちらかといえば重要		
						重要ではない				



結果分析 市民アンケート結果については、満足度において開始時以上、昨年度以下となった。新型コロナウイルス感染拡大の影響により各種イベント等の開催方法変更等の影響が考えられる。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	③ 政策内容

政策評価シート

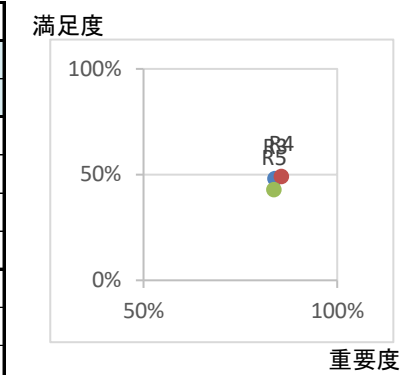
対象年度	基本目標	3 活気にあふれ地域の良さを伸ばすまち								作成部署			
R5	政策	5 消費者が安心して暮らせるまちづくり								建設経済部			
		SDGsゴール	16										
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)								
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度					
	政策事業費(予算)	3,369	2,769	2,909	3,447	政策費増減額	656	△ 600	140	538			
					比較	124%	82%	105%	118%				
	政策事業費(決算)	3,357	2,678	2,849		一般財源増減額	126	△ 142	82	245			
					比較	110%	90%	106%	118%				
コスト分析と課題		消費者被害を未然に防ぐための関係機関との連携強化、消費者トラブルの早期解決を図るためには必要な予算である。											
総合計画												行政評価	
5 消費者が安心して暮らせるまちづくり		単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価		
「消費者が悪質商法の被害に遭わない消費者保護の取り組みがされているまち」と思う市民の割合		%	45.3	60.0	48.0	49.1	42.8	56.7	75.4%	現未	E		
消費生活センター相談件数		件	197	100	238	242	231	122	52.8%	現未	D		
関連する施策													
関連する施策													
関連する施策													
関連する施策													
関連する施策													
指標分析と課題		消費生活センター相談件数は減少したが、センターが機能している側面もある。引き続き、被害防止のための啓蒙活動と消費生活センターの周知を図り、消費者相談を受けていく。											
関連施策													
施策名		担当課		指標評価		総合判定評価			R7年度拡充化○縮減化△				
1 消費者被害の軽減に努めます		商工観光課		成果1	成果2	判定評価	R7の方向性	コスト	成果	改善			
2 消費生活センターの機能を強化し、消費者の保護に努めます		商工観光課		現未	現未	A	維持	維持	③				

市民アンケート結果

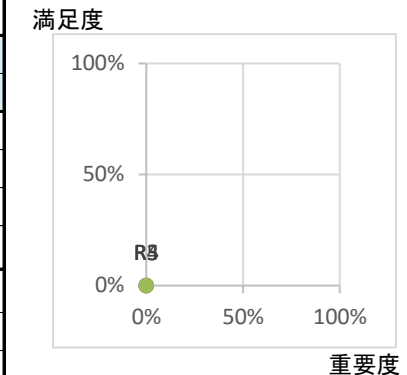
総合評価

設問 1 「消費者が悪質商法の被害に遭わない消費者保護の取り組みがされているまち」と思う市民の割合

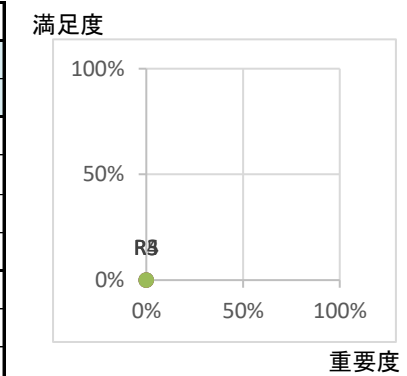
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度	45.3%	60.0%	48.0%	49.1%	42.8%	そう思う(満足)	2.4%
						どちらかといえば思う	40.4%
			80.0%	81.8%	71.3%	どちらかといえば思わない	46.9%
						そう思わない(不満)	8.3%
重要度			84.0%	85.6%	83.7%	重要	34.6%
						どちらかといえば重要	49.1%
						重要ではない	13.6%



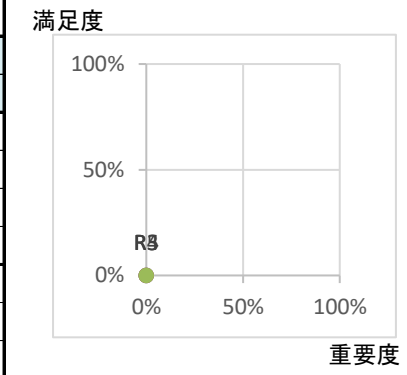
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 市民アンケート結果については、満足度において開始時以下、昨年度以下となった。引き続き関係団体等の協力を得て、啓蒙活動を行い未然防止を行っていく必要がある。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	維持→	③ 政策内容

悪徳商法や特殊詐欺が年々巧妙化している。特に行政職員や銀行員等と名乗り信用させお金をだまし取る手口が増加している。引き続き啓蒙活動を行うとともに、消費生活センターへの相談を周知していく。

政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち												作成部署
R5	政策	1 防災力を高めるまちづくり												危機管理部
		SDGsゴール	11	13	17									
コスト評価	事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)							
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度				
	政策事業費(予算)	219,615	415,649	455,269	478,075	政策費増減額	△ 52,752	196,034	39,620	22,806				
	政策事業費(決算)	207,644	366,645	418,533		一般財源増減額	△ 28,794	34,343	35,243	△ 69,328				
						比較	81%	189%	110%	105%				
						比較	78%	133%	125%	60%				
	「防災力を高めるまちづくり」には、災害復旧費事業費も含まれており災害発生状況により事業費の増減がある。													
	コスト分析と課題													

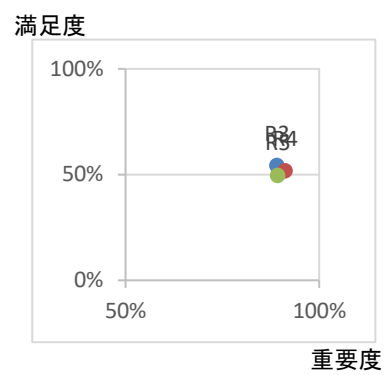
指標評価	総合計画											行政評価
	1 防災力を高めるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価	
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度			
	「災害に備え防災対策が整っているまち」だと思う市民の割合	%	50.4	60.0	54.2	51.7	49.6	57.9	85.7%	現未	C	
	関連する施策											
	「地域が防災・防火活動に取り組んでいるまち」だと思う市民の割合	%	68.1	78.0	68.3	66.5	64.4	75.8	85.0%	現未	C	
	関連する施策											
	住宅の耐震化率	%	84.2	95.0	94.1	94.5	94.9	92.6	102.5%	B	B	
	関連する施策											
	地域防災訓練(12月)への参加者数	人	14,318	15,750	8,028	7,968	12,085	15,432	78.3%	現未	E	
関連する施策												
関連する施策												
関連する施策												
指標分析と課題	コロナ禍において訓練の中止や規模縮小により、訓練参加者が減少していたが本年度においてはコロナ禍前に戻りつつある。防災力の強化を図るためには、「共助」による地域での防災活動が重要であり地域防災訓練については、過去の災害を教訓に「自助」による備え、地域での助け合い「共助」を市民にご理解いただく中で、訓練の参加者を増やしていくことが課題である。											

評価分析	関連施策											
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価				R7年度			
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△		
	1 災害に強いまちをつくります	都市計画課、建設課、危機管理部、健康づくり課、防災強化室	現未		A	拡充	拡充	①				
	2 自主防災組織の体制及び連携強化を図ります	危機管理部	S		A	拡充	拡充	①				
	3 市民の防災意識の高揚を図ります	予防課、危機管理部	B		B	維持	維持	①				
4 市民の防災活動への参加を推進します	危機管理部	現未		A	拡充	拡充	①					
5 避難情報の適切な伝達と避難体制の強化を図ります	危機管理部	S		A	拡充	拡充	①					

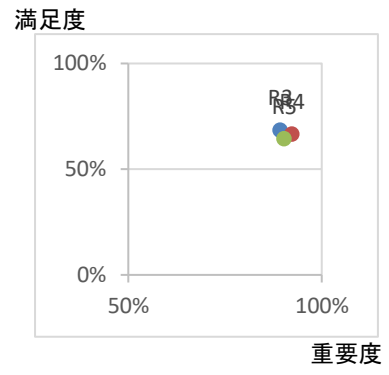
市民アンケート結果

総合評価

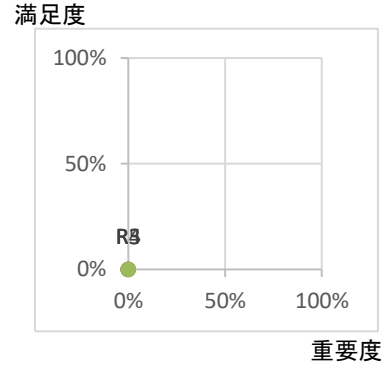
設問	1 「災害に備え防災対策が整っているまち」だと思う市民の割合										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)								
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度						
満足度	50.4%	60.0%	54.2%	51.7%	49.6%	そう思う(満足)		5.2%			
						どちらかといえば思う		44.4%			
			90.3%	86.2%	82.7%	どちらかといえば思わない		40.2%			
						そう思わない(不満)		9.2%			
重要度			89.1%	91.2%	89.3%	重要		56.3%			
						どちらかといえば重要		33.0%			
						重要ではない		8.4%			



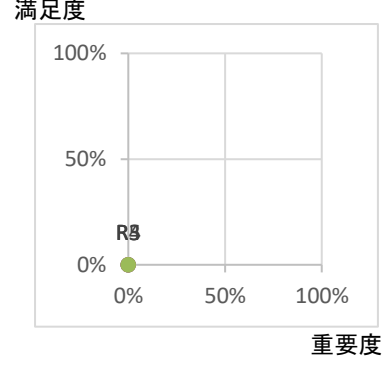
設問	2 「地域が防災・防火活動に取り組んでいるまち」だと思う市民の割合										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)								
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度						
満足度	68.1%	78.0%	68.3%	66.5%	64.4%	そう思う(満足)		9.3%			
						どちらかといえば思う		55.1%			
			87.6%	85.3%	82.6%	どちらかといえば思わない		30.2%			
						そう思わない(不満)		4.4%			
重要度			89.3%	92.3%	90.3%	重要		50.0%			
						どちらかといえば重要		40.3%			
						重要ではない		7.1%			



設問	3 「災害に備え防災対策が整っているまち」だと思う市民の割合										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)								
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度						
満足度						そう思う(満足)					
						どちらかといえば思う					
						どちらかといえば思わない					
						そう思わない(不満)					
重要度						重要					
						どちらかといえば重要					
						重要ではない					



設問	4 「地域が防災・防火活動に取り組んでいるまち」だと思う市民の割合										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)								
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度						
満足度						そう思う(満足)					
						どちらかといえば思う					
						どちらかといえば思わない					
						そう思わない(不満)					
重要度						重要					
						どちらかといえば重要					
						重要ではない					



結果分析 アンケート結果については、「災害に備え防災対策が整っているまち」「地域が防災・防火活動に取り組んでいるまち」だと思う市民の割合については、昨年度と比べ満足度が減少している。これは市の取り組みの啓発不足や近年の大規模災害を受け、公助への期待感や防災意識の変化により満足度が低迷している要因として推測される。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	拡充↑	① 政策の進め方
「防災力を高めるまちづくり」については、「自助」として災害への備えと命を守ることの大切さを伝える必要がある。また「共助」としては個人や単独組織だけでなく複数の関係者とのつながりを活かした防災活動が重要となると考える。このため「公助」によるハード対策に加え、防災・減災活動では住民の災害に対する基礎となる備えの啓発を行い、地域との訓練では防災に対する知識が身に付く取り組みと、検討と反省を繰り返して成長する訓練を実施し防災力の向上を図っていく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち								作成部署
R5	政策	2 交通事故・犯罪のないまちづくり								総務部
		SDGsゴール	3	13	16					
		事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)				
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
政策事業費(予算)		59,775	92,935	122,931	147,471	政策費増減額	7,029	33,160	29,996	24,540
						比較	113%	155%	132%	120%
政策事業費(決算)		58,996	91,547	119,702		一般財源増減額	2,876	34,464	2,810	△ 18,213
						比較	106%	167%	103%	79%
コスト分析と課題		『第2次菊川市総合計画』の基本目標4「快適な環境で安心して暮らせるまち」の実現に向け、交通事故や犯罪のないまちづくりに取り組んだ。コストは、交通安全施設の整備や防犯灯LED化工事の事業費の増、交通指導隊の改選に伴う経費の増などにより、前年度比で増額となったが、各種交通安全運動の展開など、予定していた事業を実施することができた。今後も、菊川警察署や交通指導隊、防犯協会等、関係機関との連携を強化しながら、より安全で安心なまちづくりを進めていく。								

総合計画										行政評価
2 交通事故・犯罪のないまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
		H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度		
「交通事故の危険が少ないまち」だと思ふ市民の割合	%	55.8	66.0	53.7	55.4	57.3	63.7	89.9%	B	C
関連する施策										
「身近に犯罪がなく安心して暮らせるまち」だと思ふ市民の割合	%	71.6	82.0	79.8	78.9	80.3	79.7	100.8%	B	B
関連する施策										
交通事故年間発生件数	件	314	300	171	191	191	303	158.7%	S	S
関連する施策										
刑法犯罪認知件数	件	234	200	130	114	137	208	151.5%	S	S
関連する施策										
関連する施策										
関連する施策										
指標分析と課題	「交通事故の危険が少ないまち」は、前年度比プラス1.9ポイントとなり、目標値には達していないが、現状値を上回った。また、「交通事故年間発生件数」は目標値は大きく下回っている。引き続き交通事故の減少に向け、交通安全意識の高揚といったソフト面と交通安全施設の整備といったハード面、両面からのアプローチが必要である。「身近に犯罪がなく安心して暮らせるまち」は、前年度比プラス1.4ポイントとなり、目標値には達していないが、期待値はクリアしている状況。また、「刑法犯罪認知件数」は、前年度比プラス23件となり、令和4年度より増加している。期待値・目標値ともクリアしているが、今後も警察等の関係機関と連携するなか、犯罪の抑止に努める必要がある。									

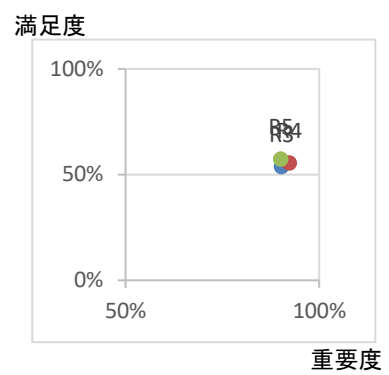
関連施策										
施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R7年度				
		成果1	成果2	判定評価	R7の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○	縮減化△
1 交通事故を減らすため交通安全活動を推進します	地域支援課	現未		A	維持	維持	①			
2 交通安全施設の整備を進めます	建設課	C		A	拡充	拡充	①		拡充化○	
3 犯罪のない明るい地域社会づくりを推進します	地域支援課	S		A	維持	維持	①			

市民アンケート結果

総合評価

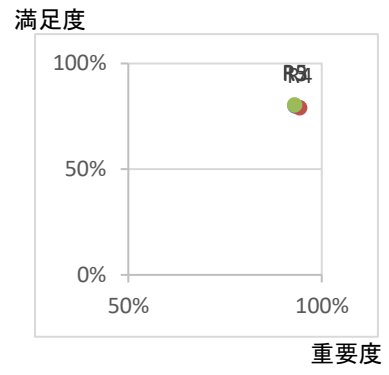
設問 1 「交通事故の危険が少ないまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度	55.9%	66.0%	53.7%	55.4%	57.3%	そう思う(満足)	6.0%
						どちらかといえば思う	51.3%
			81.4%	83.9%	86.8%	どちらかといえば思わない	33.5%
						そう思わない(不満)	7.7%
重要度			90.3%	92.3%	90.1%	重要	51.2%
						どちらかといえば重要	38.9%
						重要ではない	7.3%



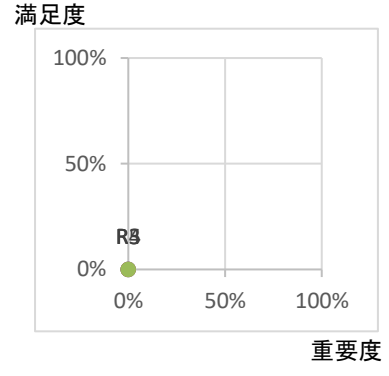
設問 2 「身近に犯罪がなく安心して暮らせるまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度	71.6%	82.0%	79.8%	78.9%	80.3%	そう思う(満足)	16.8%
						どちらかといえば思う	63.5%
			97.3%	96.2%	97.9%	どちらかといえば思わない	16.1%
						そう思わない(不満)	2.8%
重要度			93.1%	94.3%	93.0%	重要	60.8%
						どちらかといえば重要	32.2%
						重要ではない	4.6%



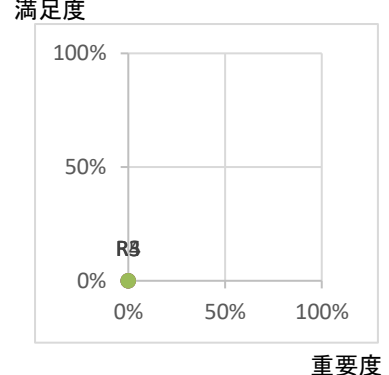
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 交通安全や防犯に対する重要度は、市民の皆様の安心・安全な暮らしに直結するものだけに高く、9割を超える方が「重要」「どちらかといえば重要」と答えている。一方、満足度は十分な状況になく、特に「交通事故の危険が少ないまち」においては、57.3%に留まり、達成率は89.9%となっている。

総合判定評価	C	見直し検討(複数施策)	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	③ 政策内容
<p>「交通事故や犯罪のないまちづくり」は、平穏な生活を営むうえで不可欠な要素であり、不断の取り組みが求められる。特に通学路における交通事故防止については、登下校指導の徹底を図るとともに、ドライバーに注意喚起を促す看板やグリーンベルトの設置、また、必要に応じた交通規制の実施など、学校・地域・警察等と連携するなか、安全対策を講じていく必要がある。防犯については、毎年自治会からの多くのご要望をいただく防犯灯の設置に関し、新設数の拡充を図った。加えて、より照度を上げるとともに、省エネルギー化・電気料の軽減に資する「既存の防犯灯のLED化」に対する助成制度も創設した。また、振り込め詐欺など、高齢者を狙った犯罪もより巧妙化しており、一層の注意喚起に努めていく。</p> <p>新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが「5類」となり、人の動きや経済活動がさらに活発になってくることが予想されるなか、交通事故や刑法犯罪のリスクが高まることも懸念される。ハード・ソフト両面の取り組みにより、事件・事故の発生を抑えていくため、関係機関と連携し、より一層の取り組みを進めていく。</p>						

政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち								作成部署										
R5	政策	3 消防力を高めるまちづくり								消防本部										
		SDGsゴール	11	13	17															
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)															
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度										
	政策事業費(予算)	227,274	179,120	191,977	396,646	政策費増減額	82,706	△ 48,154	12,857	204,669										
						比較	157%	79%	107%	207%										
	政策事業費(決算)	222,388	174,233	168,198		一般財源増減額	4,209	△ 9,617	25,918	△ 5,921										
					比較	104%	90%	129%	95%											
<p>コスト分析と課題</p> <p>令和5年度は、合併特例債や緊急防災・減災事業債、県の補助金等を有効に活用し、老朽化した消防団車両の更新、耐震性貯水槽2基の整備を行ったが、社会情勢の影響があり、資機材搬送車は更新が翌年度繰越となった。消防車両や資機材、耐震性貯水槽等の整備は、高額な費用が掛かる。しかし、火災等の災害のみならず激甚化する風水害や地震災害に対応することに加え、緊急消防援助隊の要請にも対応するには必要不可欠なものであるため、資機材の耐久性や機能性も含めた仕様について、十分検討したうえで計画的に整備していく必要がある。また、車両や資機材の部品調達が困難な状況等による整備の遅れを避けるため、社会情勢を考慮した予算計画や予算執行を行っていく必要がある。</p>																				
指標評価	総合計画										行政評価									
	3 消防力を高めるまちづくり										単位	指標評価								
											現状値 A	目標値 B	実績値 C	期待値 D	達成率 C/D	評価				
	「防災・救急体制が整備されたまち」だと思ふ市民の割合										H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度			
	関連する施策										%	59.5	70.0	68.9	65.7	65.9	67.7	97.4%	B	B
	消防団員の定数に対する充足率										%	87.6	95.0	83.5	77.7	73.9	93.4	79.2%	現未	E
	関連する施策																			
	関連する施策																			
	関連する施策																			
	関連する施策																			
<p>指標分析と課題</p> <p>市民アンケートの満足度が令和4年度とほぼ同じ結果となった。消防としては、災害現場活動の強化と自然災害への対応のための資機材の整備や、訓練による職員の技術、知識の更なる向上を図る必要がある。また、消防団員については、全国的に減少傾向にあり、本市においても厳しい状況が続いているが、消防団は地域防災に必要不可欠な存在である。新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、社会の活動がコロナ禍前に戻りつつあるため、地域や企業、消防団入団対象世代やそのご家族などに対し積極的に勧誘活動を行っていく必要がある。</p>																				
評価分析	関連施策																			
	施策名					担当課					指標評価		総合判定評価		R7年度 拡充化○ 縮減化△					
	成果1		成果2		判定評価	R7の方向性		コスト	成果	改善										
	1 消防施設・設備・体制の充実強化を図ります					警防課、消防総務課、消防署					B	A	維持	維持	①					
2 消防技術の向上を目指します					消防総務課					B	A	維持	維持	①						
3 消防団の防災力の維持・向上を図ります					消防総務課					現未	A	拡充	維持	①						

市民アンケート結果

総合評価

設問	1 「防災・救急体制が整備されたまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度	59.5%	70.0%	68.9%	65.7%	65.9%	そう思う(満足)	8.5%	どちらかといえば思う	57.4%	
			98.4%	93.9%	94.1%	どちらかといえば思わない	28.2%	そう思わない(不満)	4.4%	
重要度			91.5%	92.8%	91.9%	重要	57.3%	どちらかといえば重要	34.6%	
						重要ではない	5.2%			

設問	1 「防災・救急体制が整備されたまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)		
重要度						重要		どちらかといえば重要		
						重要ではない				

設問	1 「防災・救急体制が整備されたまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)		
重要度						重要		どちらかといえば重要		
						重要ではない				

設問	1 「防災・救急体制が整備されたまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)		
重要度						重要		どちらかといえば重要		
						重要ではない				

結果分析	<p>防災・救急の重要度が令和4年度から減少しているが、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことにより、市民の生活もコロナ禍前に戻りつつあり、救急業務への関心が希薄となってきていると考える。消防としては、社会の動きが活発化することによる火災や救急、救助出動の増加にも対応しつつ、大規模災害対応についても強化する必要があるため、資機材の整備を進めるとともに、訓練を重ねる消防力の向上に努めなければならない。</p>									
総合判定評価	B 軽微な見直し検討(一部施策)					R7年度の方向性				
	コスト		成果		改善					
	拡充↑		維持→		①			政策の進め方		
<p>災害から市民を守るという使命の下に、現在整備されている消防施設の維持管理、緊急車両や資機材の更新整備に加え、各種訓練や研修、派遣教育等による職員の資質向上や消防指令センターの共同運用により消防力の強化を図り、常に万全な体制を保つことが大切である。また、地域防災の要として必要不可欠である消防団員の確保のため、活動環境の改善等について引き続き検討するとともに、消防団活動の広報を積極的に実施し、地域や企業に対して理解や協力を求めることで団員確保に繋げ、地域防災力の強化を図っていかなければならない。</p>										

政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち											作成部署
R5	政策	4 豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくり											生活環境部
		SDGsゴール	3	6	7	8	11	12	13	14	15	17	
コスト評価	事業費と割合(千円)					予算額比較(千円)							
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度				
	政策事業費(予算)	1,088,483	1,131,332	1,120,366	1,222,607	政策費増減額	2,417	42,849	△ 10,966	102,241			
	政策事業費(決算)	1,078,365	1,121,283	1,105,762		一般財源増減額	△ 911	31,495	△ 26,148	96,732			
コスト分析と課題		新廃棄物処理施設の整備にかかる衛生施設組合への負担金の増加が見込まれるなど、循環型社会・脱炭素社会の構築を図る上で、環境施策へのコスト増が見込まれている。 環境施策について、市民等の脱炭素に向けた設備投資等への負担軽減策を講じるなど、2050年カーボンニュートラルを実現するための取組が必要である。 また、公共施設における新築等整備時のZEB化推進に向けて積極的に取り組む必要がある。											

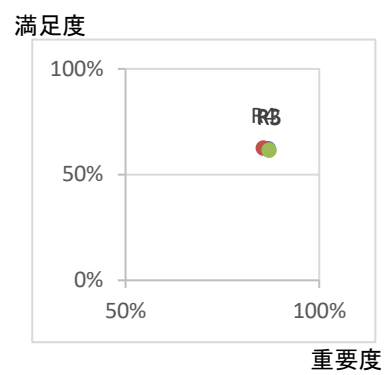
指標評価	総合計画											行政評価
	4 豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価	
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度			
	「市民や企業が環境保全に取り組むまち」だと思ふ市民の割合	%	56.8	67.0	62.1	62.5	61.4	64.7	94.9%	B	B	
	関連する施策											
	「水質が保全され川がきれいなまち」だと思ふ市民の割合	%	44.7	60.0	52.2	55.5	52.6	56.6	92.9%	B	B	
	関連する施策											
水質環境基準の達成状況(BOD値)菊川:高田橋(2.0mg/l以内)	mg/l	1.2	2.0	1.2	1.4	1.4	1.8	130.2%	S	S		
関連する施策												
水質環境基準の達成状況(BOD値)牛淵川:堂山橋(3.0mg/l以内)	mg/l	2.3	3.0	2.9	2.6	2.3	2.8	123.7%	S	A		
関連する施策												
関連する施策												
関連する施策												
指標分析と課題	令和5年度の実績値は、指標評価の指標1・指標2のいずれも前年度実績値を下回り、期待値・目標値も下回る結果となった。環境保全・水質保全に関しては、市民の関心も高く、公共下水道や合併浄化槽の普及への理解も促進され、河川環境は良好に保たれている。 課題としては、カーボンニュートラルに向けて、環境政策の重要性が高まっており、脱炭素社会を実現するために、再生可能エネルギーの普及促進や、製品プラスチック等の更なるリサイクルの推進が急務となっている。											

評価分析	関連施策										
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R7年度				
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○	縮減化△
	1 地球温暖化対策・自然環境の保全を推進します	環境推進課、農林課	B		A	拡充	拡充	①			
	2 水質浄化・生活環境の改善を進めます	下水道課、環境推進課	B		A	維持	維持	①			
3 循環型社会の推進を図ります	環境推進課	現未		A	維持	拡充	③		拡充化○		
4 適正な汚水処理施設の管理・運営を進めます	下水道課	B		A	維持	維持	①				

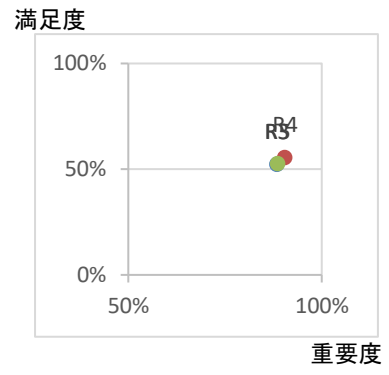
市民アンケート結果

総合評価

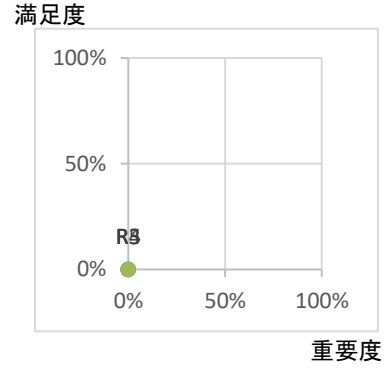
設問	1 「市民や企業が環境保全に取り組むまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度	56.8%	67.0%	62.1%	62.5%	61.4%	そう思う(満足)	5.3%
						どちらかといえば思う	56.1%
			92.7%	93.3%	91.6%	どちらかといえば思わない	31.5%
重要度			86.9%	85.6%	87.1%	重要	31.8%
						どちらかといえば重要	55.3%
						重要ではない	10.0%



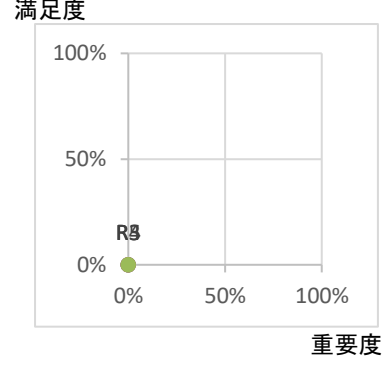
設問	2 「水質が保全され川がきれいなまち」だと思ふ市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度	44.7%	60.0%	52.2%	55.5%	52.6%	そう思う(満足)	7.7%
						どちらかといえば思う	44.9%
			87.0%	92.5%	87.7%	どちらかといえば思わない	36.2%
重要度			88.4%	90.5%	88.6%	重要	43.3%
						どちらかといえば重要	45.3%
						重要ではない	8.9%



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問							
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 設問1・2について、満足度は前年度比でそれぞれ下降しているが、重要度は設問1では前年度比で上昇し、設問2では下降している。地球温暖化防止への全世界的な取り組みが進む中、本市でも環境保全・水質保全等に関する市民の意識は高い位置にあり、脱炭素社会の実現に向けて、市の環境施策の重要度はさらに増大していく傾向にある。

総合判定評価	C	見直し検討(複数施策)	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	③ 政策内容
「豊かな自然や住みよい環境を未来へつなぐまちづくり」を進めるためには、自然環境の保全、菊川の水質保全、循環型社会の構築、カーボンニュートラルに向けた取組を着実に進めるほか、市全体において市民・事業者等の意識変革と行動変容が重要である。市では、令和5年2月の「ゼロカーボンシティ」宣言を踏まえ、2050年までの温室効果ガス排出量実質ゼロの達成に向けて、環境施策の一層の推進を図る必要がある。今後も、地球温暖化対策のほか、循環型社会の構築など、製品プラスチック資源循環等ごみを資源化する取り組みを進め、更なるごみ減量化・資源化を推進していく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち								作成部署
R5	政策	5 良好な住環境や道路・公園を次世代に引き継ぐまちづくり								建設経済部
		SDGsゴール	9	11	15					
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
	政策事業費(予算)	849,533	1,182,583	1,599,869	4,062,736	政策費増減額	△ 138,022	333,050	417,286	2,462,867
					比較	86%	139%	135%	254%	
	政策事業費(決算)	823,097	807,398	1,393,317		一般財源増減額	25,037	△ 105,507	5,366	△ 29,118
				比較	106%	77%	101%	92%		
コスト分析と課題 道路、橋梁、公園などのインフラ整備と維持管理は、交通の利便性向上や安全・安心、憩いの場の提供といった、市民生活には欠かせないものであり、市の魅力向上にもつながるため、引き続き魅力あるまちづくりに繋げていく必要がある。										

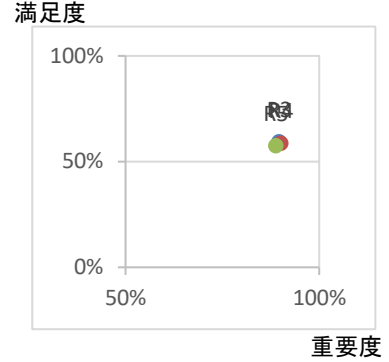
指標評価	総合計画										行政評価
	5 良好な住環境や道路・公園を次世代に引き継ぐまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
		H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度			
	「市内外にスムーズに移動できる道路が整備されたまち」だと思ふ市民の割合	%	59.4	64.0	59.3	58.7	57.5	63.0	91.3%	現未	B
	関連する施策										
	「利用しやすい交通手段が確保されたまち」だと思ふ市民の割合	%	43.5	59.0	43.1	41.8	39.9	55.6	71.8%	現未	E
	関連する施策										
	「市民の憩いの場として整備された公園があるまち」だと思ふ市民の割合	%	56.6	62.0	59.0	55.7	57.0	60.8	93.8%	B	B
	関連する施策										
	都市計画道路の整備率	%	63.5	65.5	66.0	66.4	66.8	65.1	102.6%	S	B
関連する施策											
コミュニティバス1日当りの利用者数	人/日	124	145	120	124	129	140	91.9%	B	B	
関連する施策											
関連する施策											
関連する施策											
指標分析と課題	青葉通り嶺田線(市道井筒堂線)や西方高橋線(掛浜バイパス)、市道大須賀金谷線などの整備を進めている。広域的幹線道路としての役割が大きいので、早期完成を目指していく。また、JR菊川駅南北自由通路橋上駅舎化事業を計画どおりに進め早期に事業効果を発現させる必要がある。新型コロナウイルスの影響もあり、コミュニティバスの1日当りの利用者数は横ばいであるが、感染拡大防止を行い利用促進を図っていく。										

評価分析	関連施策										
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R7年度			
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○	縮減化△
	1 良好な住環境をつくります	都市計画課	S		A	維持	維持	①			
	2 幹線道路や生活道路を整備します	都市計画課、建設課	S		A	拡充	拡充	①		拡充化○	
	3 公園などの整備を進めます	都市計画課、農林課	B		A	維持	拡充	①			
	4 交通事業者と連携して交通手段の確保に努めます	地域支援課	S	S	A	維持	維持	①			
5 橋梁や道路施設を適切に維持管理し、長寿命化を図ります	建設課	S		A	拡充	拡充	①		拡充化○		
6 市営住宅を適切に維持管理し、長寿命化を図ります	都市計画課	S		A	拡充	維持	①				

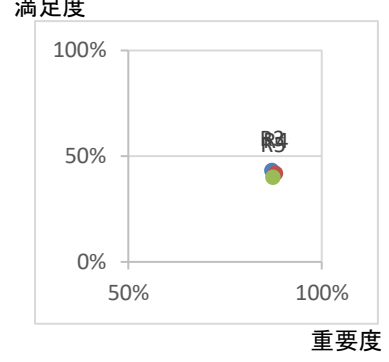
市民アンケート結果

総合評価

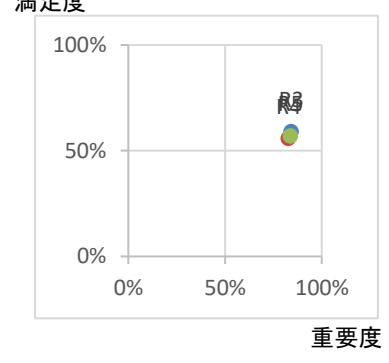
設問	1 「市内外にスムーズに移動できる道路が整備されたまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度	59.4%	64.0%	59.3%	58.7%	57.5%	そう思う(満足)		12.2%		
			92.7%	91.7%	89.8%	どちらかといえば思う		45.3%		
重要度			89.7%	90.1%	88.8%	どちらかといえば思わない		30.4%		
						そう思わない(不満)		11.2%		
						重要		43.3%		
						どちらかといえば重要		45.5%		
						重要ではない		8.9%		



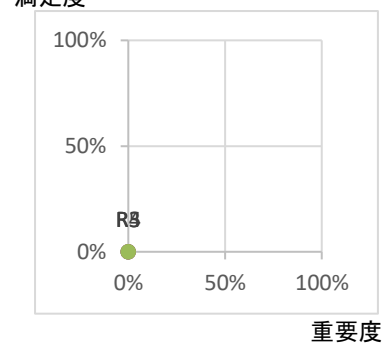
設問	2 「利用しやすい交通手段が確保されたまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度	43.5%	59.0%	43.1%	41.8%	39.9%	そう思う(満足)		7.3%		
			73.1%	70.8%	67.6%	どちらかといえば思う		32.6%		
重要度			87.2%	88.1%	87.4%	どちらかといえば思わない		38.0%		
						そう思わない(不満)		21.0%		
						重要		44.7%		
						どちらかといえば重要		42.7%		
						重要ではない		10.1%		



設問	3 「市民の憩いの場として整備された公園があるまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度	56.6%	62.0%	59.0%	55.7%	57.0%	そう思う(満足)		11.3%		
			95.2%	89.8%	91.9%	どちらかといえば思う		45.7%		
重要度			84.2%	82.8%	83.8%	どちらかといえば思わない		32.7%		
						そう思わない(不満)		9.2%		
						重要		26.8%		
						どちらかといえば重要		57.0%		
						重要ではない		13.8%		



設問	4 「市内外にスムーズに移動できる道路が整備されたまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度						そう思う(満足)				
						どちらかといえば思う				
重要度						どちらかといえば思わない				
						そう思わない(不満)				
						重要				
						どちらかといえば重要				
						重要ではない				



結果分析
市民アンケート結果については、満足度において設問1から設問2まで開始時以下、昨年度以下、設問3のみ開始時以上、昨年度以上となった。引き続き、各項目ともに上昇となるよう、JR菊川駅南北自由通路橋上駅舎化事業や(都)青葉通り嶺田線(井筒堂線)を始めとした各種インフラ整備を進めていく必要がある。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 政策の進め方
本市を選んでもらうためにも、良好な住環境や道路・公園の整備は重要である。ポテンシャルの高いインフラ整備を計画的に進め、人口減少の抑制に繋げていく必要がある。引き続き、本市を選んでもらい、住みよい菊川市を目指し、幹線道路の整備及び公園の維持管理を計画的に進めていく。						

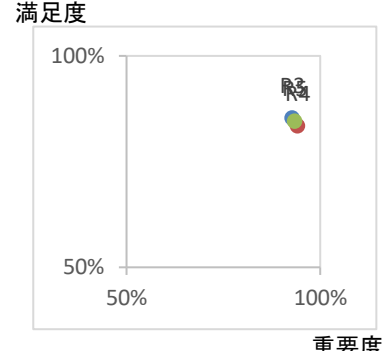
政策評価シート

対象年度	基本目標	4 快適な環境で安心して暮らせるまち				作成部署					
R5	政策	6 上水道が安全に安定して供給されるまちづくり				生活環境部					
		SDGsゴール	6								
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)						
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	
	政策事業費(予算)	60,516	116,369	8,418	8,237	政策費増減額	51,371	55,853	△ 107,951	△ 181	
						比較	662%	192%	7%	98%	
	政策事業費(決算)	60,512	116,307	8,418		一般財源増減額	△ 129	△ 225	△ 373	△ 181	
					比較	99%	98%	96%	98%		
コスト分析と課題	上水道事業は、安定した水資源の確保と安全で良質な水質管理がされており、水道事業会計において適正に処理されている。 ただし、人口減少に伴う水道料金収入の減少や水道施設の更新需要の増大、自然災害への備えなど、様々な経営課題に対応し、安全で強靱な水道経営を持続するために料金改定の検討が必要である。										
指標評価	総合計画										
	6 上水道が安全に安定して供給されるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度		
	「上水道が安全に安定して供給されているまち」と思う市民の割合	%	83.0	88.0	85.3	83.4	84.5	86.9	97.3%	B	B
	関連する施策										
	上水道有収率	%	85.7	90.0	85.0	84.3	84.3	89.0	94.7%	現未	B
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	指標評価の指標1では、令和5年度の実績値は前年度比1.1ポイントの上昇であるが、期待値・目標値をともに下回る結果となった。自己水源が乏しく、大井川の水を受水している現状を多くの市民が理解する中で、安定的かつ安全に水道水を供給出来ていることから満足度は一定の水準を維持していると考えられる。 課題としては、大切な水道水を無駄にしないよう、令和5年度に策定した管路耐震化計画に基づき、老朽管路の更新整備を計画的に進め、漏水防止と管路耐震化を促進させ、有収率を更に向上させる必要がある。										
評価分析	関連施策										
	施策名	担当課	指標評価		総合判定評価			R7年度拡充化○縮減化△			
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性	コスト	成果	改善		
	1 安定した水資源の確保と総合的な水質管理体制の構築を図ります	水道課	現未		A	維持	維持	①			
	2 管路の整備及び改良を進めます	水道課	B		A	維持	維持	①			
3 水道施設の管理及び整備を進めます	水道課	S		A	維持	維持	①				
4 安定財源の確保を図り、健全な事業経営を継続します	水道課、環境推進課	S		A	維持	維持	①				

市民アンケート結果

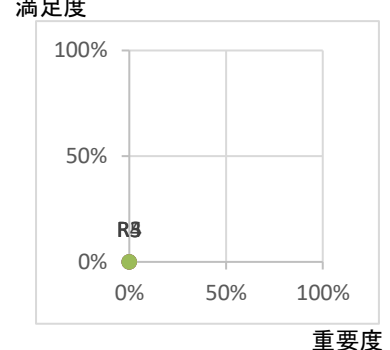
設問 1 「上水道が安全に安定して供給されているまち」と思う市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度	83.0%	88.0%	85.3%	83.4%	84.5%	そう思う(満足)	27.3%
			96.9%	94.8%	96.0%	どちらかといえば思う	57.2%
						どちらかといえば思わない	12.3%
						そう思わない(不満)	2.6%
重要度			92.8%	94.2%	93.4%	重要	55.2%
						どちらかといえば重要	38.2%
						重要ではない	4.0%



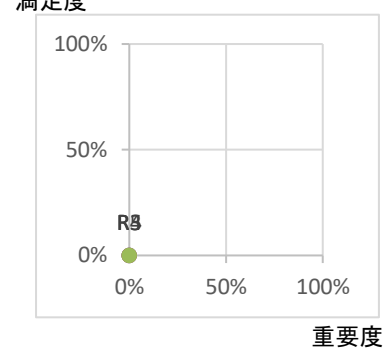
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



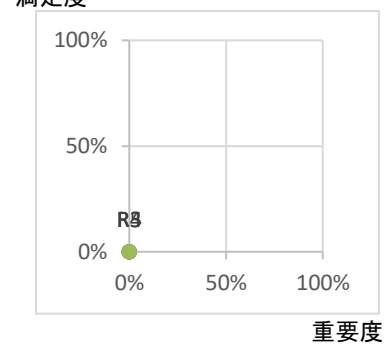
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 満足度、達成率ともに前年度から上昇したが、重要度は前年度から下降している。数値は高い水準で推移しており、リア新幹線工事などによる「大井川の水への関心」が要因の一つにあると考える。また、大井川広域水道企業団から安定的な受水を継続しており、市民の満足度も高い評価となっていると考える。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	① 政策の進め方
「上水道が安全に安定して供給されるまちづくり」を進めるためには、水道料金収入をもって経営を行うことを基本としながら、安全安心な水道水を安定供給する役割を果たし、将来にわたり安定的に事業を継続していく必要がある。上水道企業会計として安定的な経営を継続し、今後も市民満足度に一定の評価を得られるよう、管路や配水設備の適切な維持管理に努めていく。 人口減少に伴う水需要の減や、水道水供給施設の老朽化に伴う更新費用の増大など、直面する課題への対処方法として、広域的な協議・連携により業務等を効率的に進めるほか、水道料金の改定を検討していく必要がある。						

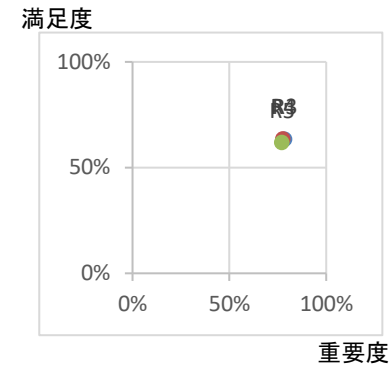
政策評価シート

対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち								作成部署				
R5	政策	1 市民と行政との協働によるまちづくり								総務部				
		SDGsゴール	16	17										
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)									
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度						
	政策事業費(予算)	184,653	183,316	181,499	212,660	政策費増減額	△ 33,645	△ 1,337	△ 1,817	31,161				
	政策事業費(決算)	176,687	174,936	172,852		一般財源増減額	8,494	8,692	429	11,730				
コスト分析と課題		<p>第2次菊川市総合計画の基本目標5「まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち」の実現に向け、市民と行政との協働によるまちづくりに取り組んだ。</p> <p>1%地域づくり活動交付金は、前年度に比べ、交付団体数は同数であったが交付確定額は増加した。一方で地区センターの電気料の減額やコミュニティ助成事業(公会堂の建築)が、令和5年度は無かったことから、コスト全体では減少となった。</p> <p>新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが「5類」に移行し、コミュニティ協議会や市民活動団体の活動がコロナ前に戻りつつあり、市民協働センターと連携しながら地域づくりに資する活動をサポートしていく必要がある。</p>												
総合計画												行政評価		
1 市民と行政との協働によるまちづくり		単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価			
「地域のコミュニティ活動などが市のまちづくりに活かされているまち」だと思ふ市民の割合		%	59.4	69.0	63.3	63.5	61.8	66.9	92.4%	B	B			
関連する施策														
「広報誌・市ホームページ・出前講座などを通して市の情報が発信されているまち」だと思ふ市民の割合		%	72.3	82.0	75.6	77.0	73.9	79.8	92.6%	B	B			
関連する施策														
市ホームページへのアクセス件数(年間)		件	290,335	315,000	812,847	703,015	634,646	309,519	205.0%	S	S			
関連する施策														
市民協働センターへの団体登録数		団体	0	90	80	88	88	70	125.7%	B	A			
関連する施策														
関連する施策														
関連する施策														
指標分析と課題		<p>「地域のコミュニティ活動が市のまちづくりに活かされているまち」については前年度比マイナス1.7ポイントとなり現状値は上回っているが期待値には達していない。「広報誌・市ホームページ・出前行政講座を通して市の情報が発信されているまち」については、前年度比マイナス3.1ポイントとなり現状値は上回っているが期待値には達していない。</p> <p>「市ホームページへのアクセス件数」は、前年度から減少しているが、これはアクセス数をカウントしているグーグルアナリティクス集計方法が令和5年度から変更されたことによるものであると考えられる。</p> <p>「市民協働センターへの登録団体数」は前年度と同数であり、引き続き市民協働センターと連携し支援を行っていく。</p>												
関連施策														
施策名		担当課		指標評価		総合判定評価			R7年度拡充化△縮減化△					
				成果1	成果2	判定評価	R7の方向性							
							コスト	成果	改善					
1 地域のために活動している市民や団体を支援します		地域支援課		S	A	維持	維持	①						
2 まちづくりを進めるために市政情報を共有します		営業戦略課、地域支援課、企画政策課		S	A	維持	拡充	①						
3 地域文化の交流を通して人のつながりを地域の活性化に活かします		地域支援課		現未	A	維持	維持	①						
評価分析														

市民アンケート結果

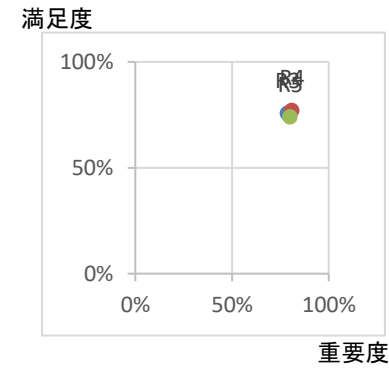
設問 1 「地域のコミュニティ活動などが市のまちづくりに活かされているまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度	59.3%	69.0%	63.3%	63.5%	61.8%	そう思う(満足)	6.0%
			91.7%	92.0%	89.6%	どちらかといえば思う	55.8%
						どちらかといえば思わない	32.2%
重要度			78.6%	77.6%	77.2%	重要	16.9%
						どちらかといえば重要	60.3%
						重要ではない	19.4%



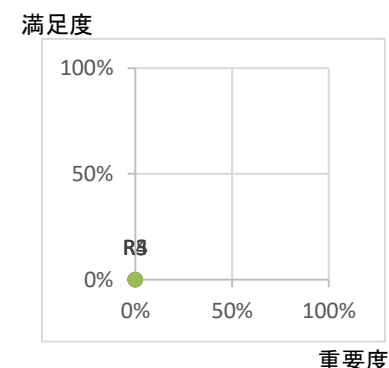
設問 2 「広報誌・市ホームページ・出前講座などを通して市の情報が発信されているまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度	72.3%	82.0%	75.6%	77.0%	73.9%	そう思う(満足)	14.6%
			92.2%	93.9%	90.1%	どちらかといえば思う	59.3%
						どちらかといえば思わない	20.1%
重要度			78.8%	80.9%	80.1%	重要	20.6%
						どちらかといえば重要	59.5%
						重要ではない	16.5%



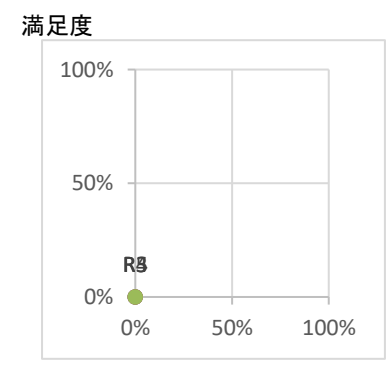
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 「地域のコミュニティ活動などが市のまちづくりに活かされているまち」は、満足度、重要度ともに下がった。令和5年度は新型コロナウイルスの影響で縮小していた地域のコミュニティ活動が元の状態に戻っていく過渡期であったため、縮小されてきたことに慣れ、満足度や重要度が低下していくことが懸念される。「広報誌・市ホームページ・出前行政講座などを通して市の情報が発信されているまち」も、満足度、重要度ともに下がった。引き続きホームページやSNS、Dボタンといった、多チャンネルでの情報発信を進めていき、満足度が高まるよう努めていく。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	拡充↑	① 政策の進め方
<p>新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「5類」に移行したことにより、祭典や納涼祭、地区センター祭りといった、地域の活力を取り戻す活動が再開されてきた。新しい生活様式を取り入れながら、持続可能な地域活動・市民活動が展開されるよう、市民協働センターとも連携するなか、コミュニティ協議会と市民活動団体とのマッチングを図るなど、市としてもサポートを進めていく。</p> <p>また、令和5年度からは、こども家庭庁が創設されるとともに、こども基本法が施行されるなど、子どもや若者の意見を施策に反映する仕組みづくりが求められる。本市においては、「わかものまちサミット2023」が開催され、「菊川市こどもわかもの参画宣言」を行った。これを機に、子どもや若者がまちづくりに参画する機運を高めていきたい。</p> <p>自治会は行政の大切なパートナーであり、その協力無くして、まちづくりは進められない。策定した「自治会の負担軽減に向けた取組方針」により、全庁を挙げて、自治会の負担軽減に取り組んでいく。</p> <p>市民に届く情報発信、菊川市の魅力が伝わる情報発信が求められている。これまでも広報紙の充実やホームページのリニューアルを行うとともに、SNSを活用した即時性の高い情報発信にも取り組んできた。引き続き効果的な情報発信等について努めていく。</p>						

政策評価シート

対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち								作成部署
R5	政策	2 まちの元気・魅力が発信されるまちづくり								企画財政部
		SDGsゴール	11	17						
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)					
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
	政策事業費(予算)	6,959	10,463	17,072	21,772	政策費増減額	6,766	3,504	6,609	4,700
						比較	360%	150%	163%	128%
	政策事業費(決算)	4,752	8,339	13,563		一般財源増減額	1,306	3,090	2,188	3,588
					比較	167%	322%	149%	154%	
コスト分析と課題 事業費全体では、特に結婚新生活支援事業費補助金の事業費が増えているが、魅力発信事業の実施や移住就業支援事業費補助金も含め、県市町村振興協会交付金や国の交付金を活用するなど財源確保に努めている。令和6年度に実施する市制20周年記念の啓発物品作成などにより一般財源は増えている。少子化・人口減少対策は重要課題であり、移住先として選ばれるための知名度向上や出会い・結婚支援、移住施策について、今後も国等の交付金を活用し実施していく。										

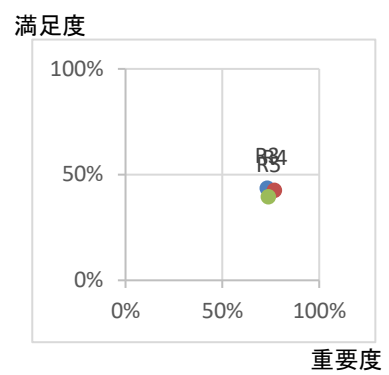
指標評価	総合計画										行政評価
	2 まちの元気・魅力が発信されるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度		
	「市内外に市の魅力が発信されているまち」だと思う市民の割合	%	31.1	46.0	43.5	42.5	39.5	42.7	92.5%	B	B
	関連する施策										
	「菊川市に行ったことがある」「菊川市を知っている」と回答した人の割合	%	63.8	90.0以上	-	-	-	-	-	-	-
	関連する施策										
	新聞(静岡・中日)への掲載件数(年間)	件	380	410	442	343	330	403	81.8%	現未	C
	関連する施策										
	関連する施策										
指標分析と課題	SNSでの発信や報道機関への情報提供数は前年とほぼ変わらない数値だが「市内外に市の魅力が発信されているまち」だと思う市民の割合、新聞への年間掲載件数も前年度から減少し、期待値に達していない。適切な時期の情報提供、情報提供内容の工夫など情報の質を向上させるように改善していく必要がある。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価			R7年度			
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性	拡充化○			
					コスト	成果	改善			
							縮減化△			
	1 知名度向上に向けて情報を発信します	営業戦略課	S		A	維持 拡充	①	拡充化○		
	2 移住・定住に関する情報を積極的に発信します	営業戦略課、企画政策課	S		A	維持 拡充	①	拡充化○		

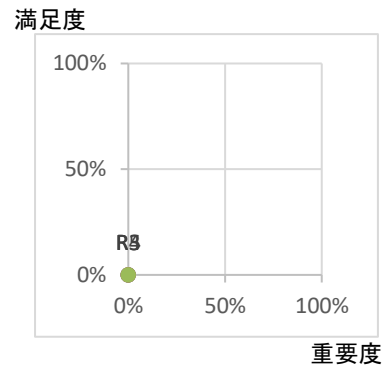
市民アンケート結果

総合評価

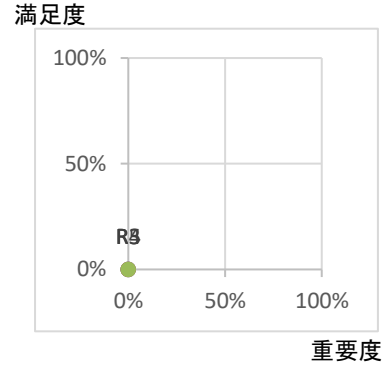
設問	1 「市内外に市の魅力が発信されているまち」だと思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度	31.0%	46.0%	43.5%	42.5%	39.5%	そう思う(満足)	2.9%
						どちらかといえば思う	36.6%
			94.6%	92.4%	85.9%	どちらかといえば思わない	48.3%
重要度			73.2%	77.0%	73.9%	そう思わない(不満)	10.2%
						重要	17.2%
						どちらかといえば重要	56.7%
					重要ではない	22.8%	



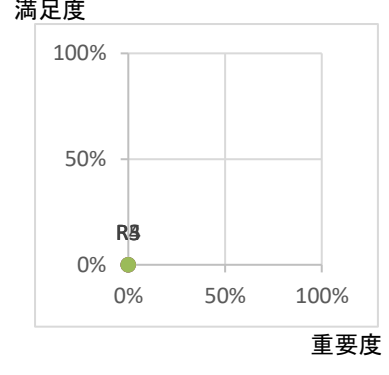
設問	2 「市内外に市の魅力が発信されているまち」だと思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
					重要ではない		



設問	3 「市内外に市の魅力が発信されているまち」だと思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
					重要ではない		



設問	4 「市内外に市の魅力が発信されているまち」だと思う市民の割合						
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度		
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
重要度						そう思わない(不満)	
						重要	
						どちらかといえば重要	
					重要ではない		



結果分析
重要度は70%台で推移しているが、満足度は40%前後で乖離がある。自らが住むまちの認知度向上、シビックプライドを醸成するために市の魅力のPRが重要だと思うことや、日々の話題の発信・提供を求めている市民が多いと考える。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				拡充↑	拡充↑	③ 政策内容
令和4年度から営業戦略アドバイザーとの連携によるマーケティング、プロモーションが強化がされ、「茶畑の中心で愛を叫ぶ」や「きくがわ応援大使」事業など拡充されてきている。令和6年度は、まちの魅力や地域資源を再認識するとともに、ふるさとに愛着を感じていただけるように市制20周年記念事業を実施していく。人口確保につながる出会い・結婚サポート事業や移住・定住・交流支援事業により、魅力の発信、移住・定住の推進につなげていく必要がある。						

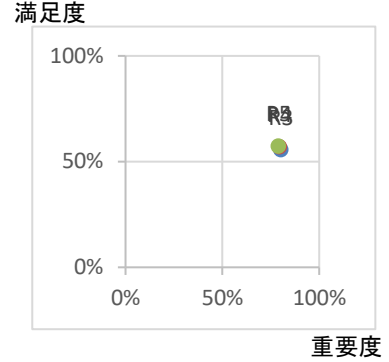
政策評価シート

対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち								作成部署			
R5	政策	3 性別、国籍を超えた共生社会を推進するまちづくり								総務部			
		SDGsゴール	5	10	16	17							
コスト評価	事業費と割合(千円)				予算額比較(千円)								
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度			
	政策事業費(予算)	9,065	10,361	10,177	9,765	政策費増減額	△ 1,183	1,296	△ 184	△ 412			
	政策事業費(決算)	8,696	10,186	9,981		比較	88%	114%	98%	96%			
					一般財源増減額								
					比較				101% 105% 98% 100%				
	コスト分析と課題 令和3年度に策定した「第4次菊川市男女共同参画プラン」及び「第4次菊川市多文化共生推進行動指針」に基づき、各種施策を行った。コストが減額した要因としては、平成4年度に作成した外国人住民の方が安心して暮らすことを目的とした「多言語版生活オリエンテーション動画」を平成5年度は職員が対応したことによるものである。男女共同参画・多文化共生・人権擁護とも、その推進に向けては、市民の皆さまの意識を醸成することが不可欠であるため、より訴求対象に届く啓発を行っていく必要がある。												
指標評価	総合計画											行政評価	
	3 性別、国籍を超えた共生社会を推進するまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価		
		H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度					
	「男女が個人として尊重され、ともに個性や能力を發揮できるまち」だと思ふ市民の割合	%	48.6	64.0	55.6	56.9	57.3	60.6	94.6%	B	B		
	関連する施策												
	「文化や国籍が異なる人々が共に暮らしやすいまち」だと思ふ市民の割合	%	57.1	67.0	64.7	65.9	64.3	64.8	99.2%	B	B		
	関連する施策												
	市協議会、委員会などの女性登用率	%	26.5	33.3	27.4	28.6	28.5	31.8	89.7%	B	C		
	関連する施策												
	多文化共生サポーター数	人	0	10	21	29	36	8	450.0%	S	S		
関連する施策													
関連する施策													
関連する施策													
指標分析と課題	「男女が個人として尊重され、ともに個性や能力を發揮できるまち」は、前年度比0.4ポイント上昇したものの、期待値に対する達成率が94.6%に留まり、やや伸び悩んでいる。 「文化や国籍が異なる人々が共に暮らしやすいまち」は、前年度比1.6ポイント下降している。 また、市協議会、委員会などへの女性登用率は28.5%となり、前年度比0.1ポイント下降した。分野によっては依然として0%の委員会等もあり、より広範な分野で女性の視点を生かす取り組みが求められる。 多文化共生サポーター数は、前年度比プラス7人と、大きな伸びを見た。												
関連施策													
評価分析	施策名		担当課		指標評価		総合判定評価			R7年度拡充化○縮減化△			
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性							
						コスト	成果	改善					
	1 男女が平等な立場で参画できる社会づくりに取り組みます	地域支援課	B	A	維持	維持	①						
	2 外国人が暮らしやすい環境を整備します	地域支援課	S	A	維持	維持	①						
	3 人権擁護活動を推進します	市民課	B	A	維持	維持	①						

市民アンケート結果

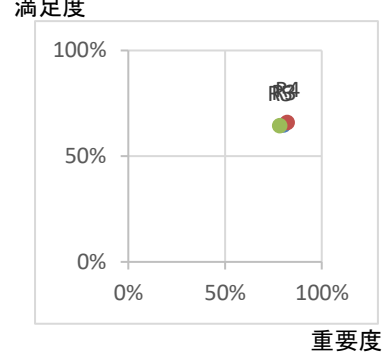
設問 1 「男女が個人として尊重され、ともに個性や能力を發揮できるまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度	48.5%	64.0%	55.6%	56.9%	57.3%	そう思う(満足)	4.8%
			86.9%	88.9%	89.5%	どちらかといえば思う	52.5%
						どちらかといえば思わない	35.4%
						そう思わない(不満)	5.1%
重要度			80.2%	79.5%	79.0%	重要	21.6%
						どちらかといえば重要	57.4%
						重要ではない	17.5%



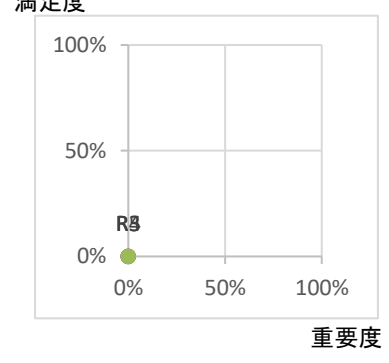
設問 2 「文化や国籍が異なる人々が共に暮らしやすいまち」だと思ふ市民の割合

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度	57.1%	67.0%	64.7%	65.9%	64.3%	そう思う(満足)	7.6%
			96.6%	98.4%	96.0%	どちらかといえば思う	56.7%
						どちらかといえば思わない	29.3%
						そう思わない(不満)	4.3%
重要度			80.4%	82.3%	78.4%	重要	22.3%
						どちらかといえば重要	56.1%
						重要ではない	17.9%



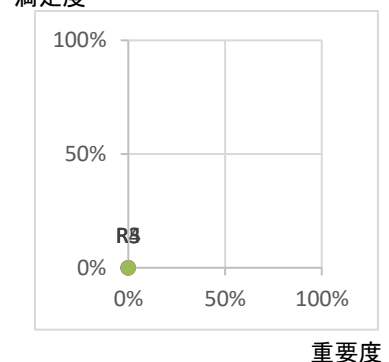
設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



設問

区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)				
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度
満足度						そう思う(満足)	
						どちらかといえば思う	
						どちらかといえば思わない	
						そう思わない(不満)	
重要度						重要	
						どちらかといえば重要	
						重要ではない	



結果分析 「男女が個人として尊重され、ともに個性や能力を發揮できるまち」「文化や国籍が異なる人々が共に暮らしやすいまち」の設問において、「重要でない」と答えた人の割合が、それぞれ17.5%・17.9%残っていることが、この問題の難しさを物語っている。一方で、満足度は横ばいの状況が続いており、全庁を挙げて「第4次菊川市男女共同参画プラン」及び「第4次菊川市多文化共生推進行動指針」に掲げた事業を推進していくことが求められる。満足度・重要度ともに上昇させるため、引き続き、市民の皆様の意識に訴える啓発活動に取り組んでいく。

総合判定評価	A	見直し・検討無し	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	拡充↑	① 政策の進め方
男女共同参画については、アンコンシャス・バイアス＝「固定的な性別役割分担意識や性差に関する偏見・固定概念・無意識の思い込み」を低減させていくことが、これまでも大きな課題であり、男女共同参画社会の実現に向けたポイントとなっている。また、LGBTQやリプロダクティブ・ヘルス/ライツ＝「性と生殖に関する健康と権利」といった、比較的新しい言葉・考え方に対する理解を深める必要性についても「第4次男女共同参画プラン」に掲げられ、若年層への働きかけの重要性が謳われている。今後は、SDGsの視点も踏まえ、「第4次男女共同参画プラン」に掲げた施策を着実に推進していく。市の人口における外国人比率は、リーマンショックにより一時大きく減少したものの、令和5年度末には8.55%と過去最高の8.56%に迫っており、依然として県下市町村トップの比率となっている。令和2年度に実施した外国人住民の方へのアンケートでは、「菊川市は住みやすい」と答えた方が76.4%で、5年前と比べ、12.3ポイント上昇している。これまで取り組んできた施策が一定の成果につながったと考えられる。今後は、「第4次多文化共生推進行動指針」に基づき、コミュニケーション支援や生活支援、多文化共生の地域づくりなどに取り組んでいく。						

政策評価シート

対象年度	基本目標	5 まちづくりに市民と行政が共に取り組むまち												作成部署
R5	政策	4 未来に向かって行財政機能を高めるまちづくり												企画財政部
		SDGsゴール	8	10	11	16	17							
コスト評価	事業費と割合(千円)						予算額比較(千円)							
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度				
	政策事業費(予算)	823,209	1,400,270	673,114	765,835	政策費増減額	△ 469,583	577,061	△ 727,156	92,721				
						比較	64%	170%	48%	114%				
	政策事業費(決算)	795,559	1,383,433	650,142		一般財源増減額	234,217	△ 175,987	15,211	△ 41,632				
					比較	145%	77%	103%	93%					
	コスト分析と課題	事業費は令和4年度には合併特例債を原資とする地域振興等基金の積立て約7億円があったことから大きく減となっている。令和7年度までは、自治体情報化システムの標準化・共通化などICT施策関連事業費の増加が見込まれる。制度改正による会計年度任用職員に係る人件費増は大きな負担となるため、事務の効率化により負担を抑制していく必要がある。												

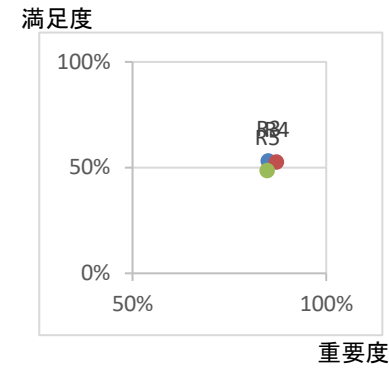
指標評価	総合計画										行政評価
	4 未来に向かって行財政機能を高めるまちづくり	単位	現状値 A	目標値 B	実績値 C			期待値 D	達成率 C/D	評価	指標評価
			H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度	R5年度	R5年度		
		%	42.7	58.0	53.0	52.5	48.6	54.6	89.0%	B	C
	「効率的・効果的な行財政運営が行われているまち」だと思ふ市民の割合										
	関連する施策										
	将来負担比率	%	49.3	40.0	算定なし	算定なし	未公表	42.1	-	-	-
	関連する施策										
	関連する施策										
	関連する施策										
関連する施策											
指標分析と課題	「効率的・効果的な行財政運営が行われているまち」だと思ふ市民の割合が、50%を下回った。将来負担比率は、令和3年、4年度は「算定なし」となっており、令和5年度分は決算を基に今後算定作業が始まる。行政運営において非常に重要な要素であり、今後も、市民の皆さまに市の取組みや財政状況等をわかりやすく伝えることが必要であるため、広報紙やホームページ、SNSを活用し周知していく。										

評価分析	関連施策									
	施策名	担当課	指標評価	総合判定評価				R7年度		
			成果1	成果2	判定評価	R7の方向性	コスト	成果	改善	拡充化○ 縮減化△
	1 市役所の組織力を高めます	総務課	S		A	拡充	拡充	①		
	2 ICT(情報通信技術)を活用し効率的な行政運営をします	企画政策課	B		A	拡充	拡充	①		拡充化○
	3 健全で安定した行財政運営を構築します	財政課、企画政策課、小笠市民課、税務課	現未		A	拡充	拡充	①		
	4 新公共経営と共創による行政運営を推進します	財政課	現未		A	拡充	拡充	①		
5 他市町との広域連携を推進します	企画政策課	C		B	縮小	維持	①			

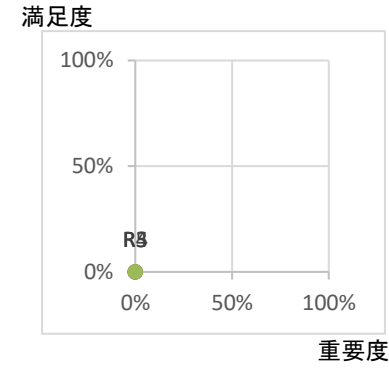
市民アンケート結果

総合評価

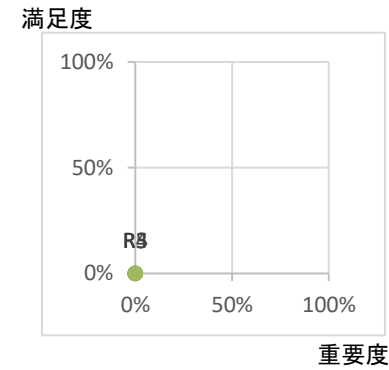
設問	1 「効率的・効果的な行財政運営が行われているまち」だと思ふ市民の割合									
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度	42.7%	58.0%	53.0%	52.5%	48.6%	そう思う(満足)	2.9%	どちらかといえば思う	45.7%	
			91.4%	90.5%	83.8%	どちらかといえば思わない	38.7%	そう思わない(不満)	10.0%	
重要度			85.1%	87.2%	84.8%	重要	35.7%	どちらかといえば重要	49.1%	
						重要ではない	11.2%			



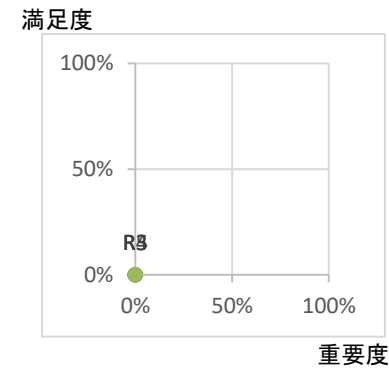
設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)		
重要度						重要		どちらかといえば重要		
						重要ではない				



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)		
重要度						重要		どちらかといえば重要		
						重要ではない				



設問										
区分	開始時	目標値	結果(満足度下段:達成率)							
	H27年度	R7年度	R3年度	R4年度	R5年度					
満足度						そう思う(満足)		どちらかといえば思う		
						どちらかといえば思わない		そう思わない(不満)		
重要度						重要		どちらかといえば重要		
						重要ではない				



結果分析 満足度48.6%は前年度より3.9ポイント下落したものの、開始時(H27)より5.9ポイント上昇している。しかし、重要度は84.8%と高く、将来の少子高齢・人口減少社会を見据えれば、デジタル化、行財政改革、民間活力の活用などによる効率的・効果的な行財政運営を進めていく必要がある。

総合判定評価	B	軽微な見直し検討(一部施策)	R7年度の方向性	コスト	成果	改善
				維持→	拡充↑	① 政策の進め方
行財政機能を高めるためには、職員一人ひとりの生産性を高めるとともに、常にコスト意識を持ち、行政経営の視点に立って業務に当たることが求められる。政策・施策・事業単位でPDCAサイクルを回す「行政経営システム」により、効率的・効果的な行財政運営を進めていく必要がある。						
また、限られた職員で効率よく業務を進めるためには、AIやRPAの活用などDX(デジタルトランスフォーメーション)・デジタル化の推進も不可欠となる。相応のコストが必要となるが、働き方改革(テレワークの推進や時間外勤務の削減、休暇取得の促進等)、経常経費の削減につなげていくことが求められる。						